

茨木市屋外広告物ガイドライン
(素案)

茨木市屋外広告物ガイドラインの構成

茨木市の目指す姿や
基本的な考え方について

屋外広告物の種類や掲出する
地域ごとの考え方について

1. はじめに

本ガイドライン策定の背景や、対象となる屋外
広告物、基本理念等を紹介しています。

- (1) ガイドライン策定にあたって P.3
- (2) ガイドラインの対象となる屋外広告物 P.4
- (3) 本市の目指す広告景観の方向性(基本理念) P.5

2. 共通の配慮事項〈5つの基本事項〉

屋外広告物を掲出するにあたり、共通で確認す
べき事項について紹介しています。

- (1) 規模・配置 P.7
- (2) 形態・意匠 P.9
- (3) 色彩 P.11
- (4) 照明 P.13
- (5) 適切な維持管理 P.14

3. 広告種類別の配慮事項

屋外広告物の種類別に配慮のポイントや良好な
事例を紹介しています。

- (1) 屋上広告物 P.15
- (2) 壁面広告物 P.16
- (3) 突出広告物 P.17
- (4) 地上広告物 P.18
- (5) 窓面利用広告物 P.19
- (6) 簡易広告物(広告旗、立看板、はり紙・はり札) P.20
- (7) 車体利用広告物 P.21
- (8) 映像装置付き広告物(デジタルサイネージ) P.22
- (9) 公共サイン(公的機関が掲出する広告物) P.23

4. 地域別の配慮事項

地域の特色に合わせた配慮のポイントや良好な
事例を紹介しています。

- (1) 住宅地
 - ・閑静な住宅地 P.25
 - ・商業施設が混在する住宅地 P.26
- (2) 商業地
 - ・駅前広場 P.27
 - ・駅から延びるメインストリート P.28
- (3) 工業地 P.30
- (4) 幹線道路沿道 P.31
- (5) 山間部 P.32

掲出の可否や本市の区域ごとの
許可基準、配慮事項等について

許可申請手続き
について

5. 茨木市屋外広告物条例による規制内容

屋外広告物を掲出するための確認フローと、条例に即した基準や配慮のポイント、良好な事例を紹介しています。

屋外広告物を掲出するための確認フロー	P.33
(1) 禁止広告物	P.34
(2) 禁止物件	P.34
(3) 禁止区域(非自家用広告物禁止路線含む)	P.35
(4) 適用除外	P.37
(5) 許可区域	P.41
(6) 許可基準と配慮事項	
1) 第1種区域	P.43
2) 第2種区域	P.45
3) 第3種区域	P.47
(7) 景観形成地区の重点規制基準	
1) にぎわい景観形成地区	P.49
2) 元茨木川緑地景観形成地区	P.51
3) 彩都景観形成地区	P.52
4) 歴史的景観形成地区	P.53
5) 沿道景観形成地区	P.54

6. 許可申請手続き

許可申請手続きのフローと、必要な書類等を紹介しています。

許可申請手続きのフロー	P.55
(1) 必要書類	P.56
(2) 許可手数料と許可期間	P.57
(3) 関係法令に係る手続き	P.57
(4) 屋外広告物の管理	P.58
(5) 違反措置・罰則	P.59
(6) 窓口一覧	P.59

1. はじめに

(1) ガイドライン策定にあたって

屋外広告物の特徴

屋外広告物は、多くの人々に必要な情報を提供するために有効な情報伝達的手段であり、まちの賑わいを創出する重要な景観要素でもあります。一方で、不特定多数の人々を対象として、公共空間に向かって表現されるため、皆が心地よく感じるような意匠とするなどの社会的な役割が求められます。

ガイドライン策定の背景

茨木市は、景観法が施行される以前の平成元年から、要綱に基づき建物や屋外広告物などの届出制度による景観誘導を開始し、平成 24 年には「茨木市景観計画」を策定しました。「茨木市景観計画」では茨木市の目指すべき景観像を「北摂の自然と歴史に育まれ うるおいと心づかひの感じられるまち いばらき」と定め、茨木市の特徴である自然景観、市街地景観、歴史的景観、沿道景観といった多様な景観を維持するため、景観の誘導を積極的に取り組んできました。

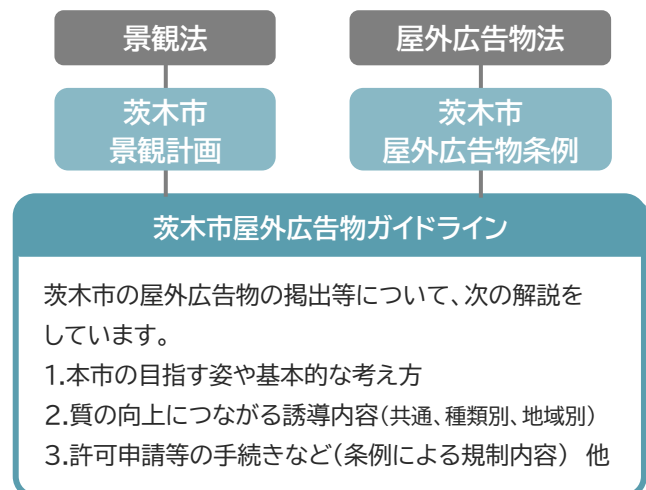
屋外広告物については、景観を形成する重要な構成要素であることから、平成 25 年から大阪府の屋外広告物条例による運用を行い、広告主や屋外広告業者、市民の皆さまに対し、配慮を求めてきました。

こうした取組みにより、周辺環境や地域らしさに配慮された屋外広告物の掲出がある一方で、本市の景観像に馴染まない広告物の掲出が確認できる状況にあるため、更なる配慮を求めていく必要があります。

ガイドライン策定の目的

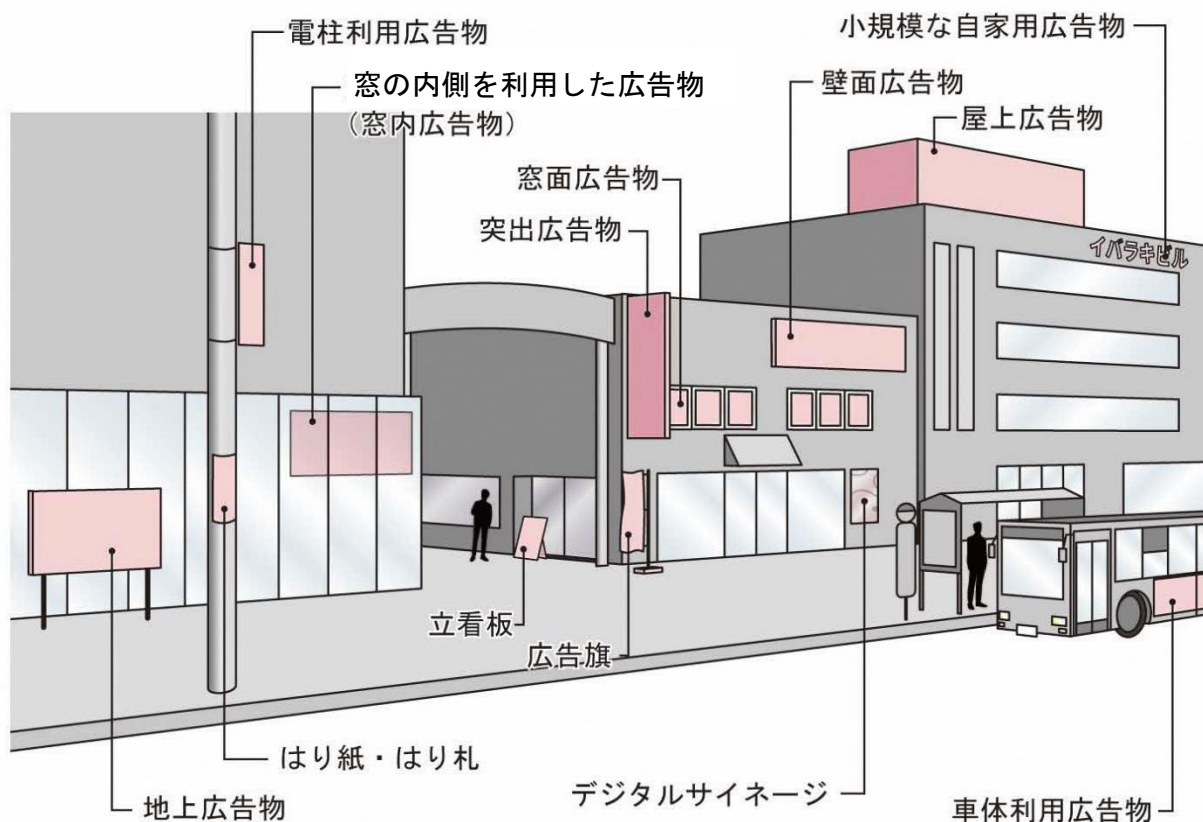
このような現状を踏まえ、本市では独自の屋外広告物条例を制定するとともに、「茨木市屋外広告物ガイドライン」を作成しました。「茨木市屋外広告物ガイドライン」は、景観計画における屋外広告物の基本的な考え方を踏まえ、良好な景観形成を図るための屋外広告物の具体的な配慮事項(誘導内容)や屋外広告物条例に基づく規制内容等を、図面や事例写真などを示しながら、わかりやすく解説しています。

広告主や屋外広告業者、市民の皆さまが本ガイドラインを活用し、広告景観の質的な向上を図ることを通じて、茨木らしい魅力的な景観の実現を目指していきます。



(2) ガイドラインの対象となる屋外広告物

本ガイドラインでは、「屋外広告物法で定められた屋外広告物※」のほか、窓の内側を利用した広告物（窓内広告物）、屋外広告物に類する広告物も含めた全ての広告物を対象とします。



※屋外広告物法で定められた屋外広告物(屋外広告物法 第2条)

この法律において「屋外広告物」とは、常時又は一定の期間継続して屋外で公衆に表示されるものであつて、看板、立看板、はり紙及びはり札並びに広告塔、広告板、建物その他の工作物等に掲出され、又は表示されたもの並びにこれらに類するものをいう。

(3) 本市の目指す広告景観の方向性(基本理念)

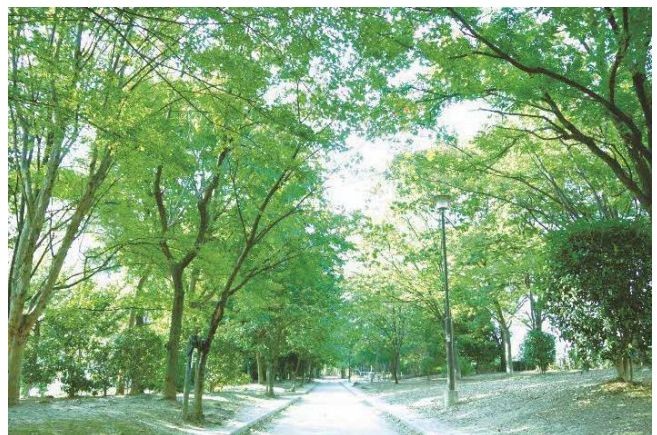
自然とまちに調和し 心づかいの感じられる 広告景観づくり

自然

北摂の山並み、棚田、安威川などの豊かな自然を活かしてきたまち、茨木。これら多様な自然と、それぞれの資源が織りなす調和が、茨木らしい風景として人々の心に刻まれています。

特に、北部の北摂山系は、市内の多くの場所から緑豊かな風景を臨むことができ、四季折々の風景は見る人にうるおいとやすらぎを与えています。

豊かな自然の中で築き上げられてきた今日の景観を、さらに魅力あるものへと高め、未来に引き継いでいくためには、自然が身近に感じられるような調和や配慮を行うことが大切です。



まち



北摂の良好な住宅地でありながら、古くから交通の要衝として商業や工業を発展してきたまち、茨木。これら多様で多彩な景観特性を有していることが、茨木の特徴であり、茨木らしさです。

様々な特色のある茨木を、より魅力的なまちとしていくためには、地域に目を向け、周辺環境と調和を図り、秩序が保たれ、心地よさを感じられるようにすることが大切です。

また、多くの人が行きかう市の中心部では、安全で快適な空間を充実させ、まちの継続的な発展を図るために、歩行者目線で魅力的に映る“人が中心”の景観誘導を進めることが重要です。



2. 共通の配慮事項〈5つの基本事項〉

(1) 規模・配置

【誘導方針】 まちなみや自然景観(北摂山系等)に調和した規模・配置とする。

- 屋外広告物は、周辺のまちなみや自然景観に影響を与える重要な要素です。良好な景観を形成するために、まちなみや自然景観に調和した規模や配置としましょう。
- 北摂山系等の山並みなど自然景観が背景として見える場所では、良好な眺望が損なわれないように配慮しましょう。

① まちなみや自然景観に調和した規模とする

- 屋外広告物は、景観を形成する重要な要素となります。屋外広告物を掲出する場合は、周辺のまちなみや自然景観との調和に配慮した適切な規模で計画しましょう。
- 北摂山系等の山並みなど自然景観が背景になる場合は、眺望を阻害しないように規模を小さくするなど配慮が求められます。
- 周囲に圧迫感を与えないような必要最小限の大きさにしましょう。



自然景観を阻害しない大きさ・高さとする。

② 配置・配列を整理する

- 広告物が無秩序に掲出されている場合、どの広告物を見れば良いのかがわかりにくく、景観上も乱雑な印象となります。配置・配列を整理することで、効果的に情報を伝達するようにしましょう。
- 歩行者は一般的に4階以上には目が届きにくいと言われているため、効果的な広告物となるように、建物の低層部に集約しましょう。



望ましい広告物のイメージ

③ 同じ情報の反復を避ける

- 同じ内容の屋外広告物を反復して掲出すると、視覚情報を氾濫させるだけでなく、景観を阻害する要因にもなります。必要最小限の掲出数とし、すっきりとした印象になるようにしましょう。



広告物を集約し、配置・配列を整理する。

④ まちなみに適した文字の大きさにする

- 一般的に可読距離(広告物までの距離)に応じた必要な和文文字の大きさの目安は、「文字の高さ×250=可読距離」であり、アルファベットなどの英文文字高は和文文字高の75%でも十分認識できると言われています。
- 必要以上に文字を大きくすると周辺から突出した印象を与え、景観を阻害する要因になります。視認性を考慮した上で、大きくなり過ぎない適切な文字サイズにしましょう。

視認性に配慮した文字サイズ

可読距離	和文文字高	英文文字高
30mの場合	120mm以上	90mm以上
20mの場合	80mm以上	60mm以上
10mの場合	40mm以上	30mm以上
4~5mの場合	20mm以上	15mm以上
1~2mの場合	9mm以上	7mm以上

出典:「公共交通機関旅客施設の移動円滑化整備ガイドライン」
(国土交通省)



視認性を考慮し、適切な文字の大きさとしている事例(大阪市)



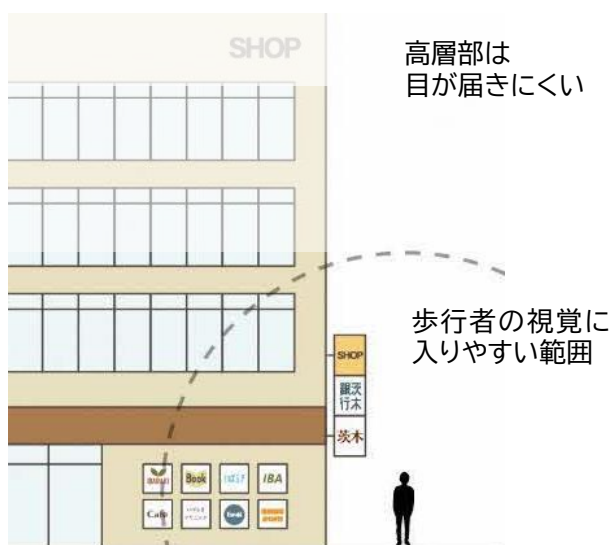
歩行者からの見え方に配慮している文字の大きさの事例(京都市)

Point 歩行者の視覚に入りやすい場所

歩行者が歩いているときは、9mほど先の地面に目を向け、およそ20度の範囲を見ています。20度の範囲は、建物の低層部(1~3階)にあたります。

その範囲から外れているところは注目されず、屋外広告物を掲出しても効果が薄くなります。

できるだけ建物の低層部に屋外広告物を掲出し、建物の低層部の賑わい形成を図るとともに、歩行者に対して効果的な広告となるように工夫しましょう。



高層部は
目が届きにくい

歩行者の視覚に
入りやすい範囲

出典:「屋外広告の知識/デザイン編」
(編集:「屋外広告の知識(デザイン)」編集委員会)

(2) 形態・意匠

【誘導方針】 まちなみに調和した形態・意匠とし、必要最低限の情報とする。

- 屋外広告物だけが目立つことは避け、周辺のまちなみに調和した形態・意匠とすることでまちの雰囲気づくりに貢献しましょう。
- 必要な情報を正確に伝えられるように整理しましょう。

① まちなみに調和した形態・意匠とする

- 屋外広告物を掲出するまちなみに調和するように、形態・意匠を工夫しましょう。
- 特に歴史的なまちなみが残る地域では、木材などを積極的に使用し、素材の持つ質感や色彩を活かした意匠となるようにしましょう。



形態・意匠に統一感を持たせ、落ち着きあるまちなみに調和している事例（大津市）



歴史的なまちなみに合わせて、木材を用い、質感や色彩を活かしている事例（京都市）

② 建物と一体的に計画する

- 建物の外観と不協和な意匠の屋外広告物が掲出されると、建物の価値を下げ、景観を阻害する要因となることがあります。屋外広告物を含む建物の外観がまとまって見えるように建物と一体的に計画しましょう。
- 屋外広告物が建物の印象に与える影響は少なくなく、優れた意匠の屋外広告物は建物の良い印象を引き立てます。建物のオーナーや入居するテナントにも、屋外広告物と与える影響について理解を得ながら、建物の建築計画の段階から屋外広告物を含めた意匠を検討しましょう。



建物の外観に調和し、建物意匠と一体的にデザインしている事例（〇〇市）



建物の素材に調和し、建物の良い印象を引き立てている事例（〇〇市）

③ 情報を整理する

- 人が短時間で判読できる情報量には限界があります。そのため、屋外広告物に情報を盛り込みすぎると、必要な情報が伝わらなくなります。効果的に情報を伝えるために、要点を絞って簡潔な表現としましょう。
- 人物や飲食店等の写真を用いたダイレクトな表現は、目立ちやすい一方で情報量が多く、景観を阻害する要因となります。表現が過大にならないように工夫しましょう。



避けたい広告物のイメージ



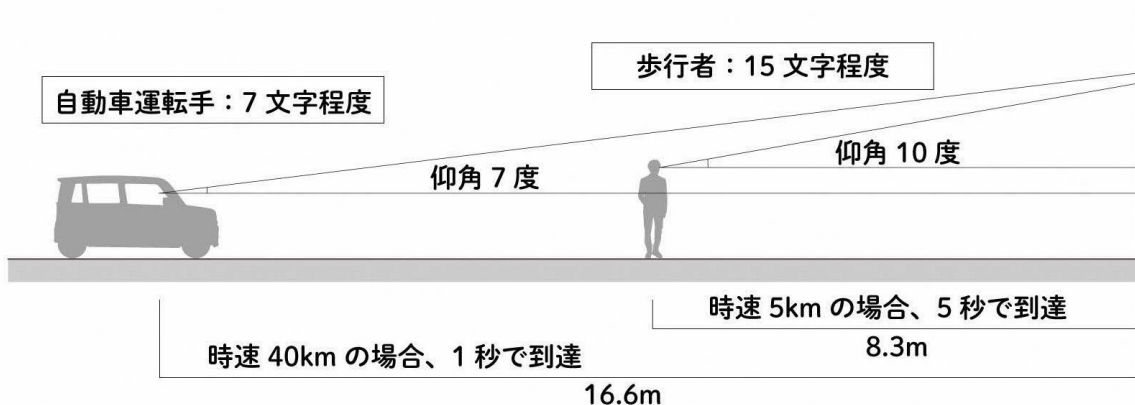
望ましい広告物のイメージ



情報量を整理し、効果的に情報を伝える。

Point 適切な文字数

歩行者が瞬間的に読むことができる文字数は 15 文字程度、自動車運転手の場合は走行速度 40km の場合で 7 文字程度とされています。屋外広告物を見る相手のことを考えて、適切な文字数となるようにしましょう。



出典：「屋外広告の知識／デザイン編」
 (編集「屋外広告の知識(デザイン)」編集委員会)

(3) 色彩

【誘導方針】 まちなみや自然景観(北摂山系等)に調和した色彩とする。また、色彩の特性を活かし、見やすさやわかりやすさに配慮する。

- 屋外広告物だけが目立つことは避け、周辺のまちなみや自然景観に調和した色彩を用いることでまちの雰囲気づくりに貢献しましょう。
- 見やすく、わかりやすい配色になるように工夫しましょう。

① まちなみに調和した色彩とする

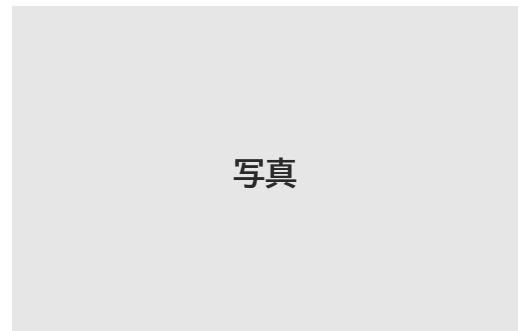
- 屋外広告物に建物の外壁の色と異なる色を用いた場合、周囲から突出した印象を与え、まちなみの連続性が失われてしまうことがあります。板面の地色を落ち着いた色彩や建物の外壁と同系色とするなど建物の意匠に調和させ、まちなみとの調和を図りましょう。



落ち着いた色彩を用い、周辺のまちなみと調和している事例(〇〇市)

② 自然景観に調和した色彩とする

- 背景の山並みや周辺の田園など、自然景観の緑との調和に配慮し、落ち着いた色彩を用いましょう。
- 板面の地色は彩度を抑え、アースカラー(大地のような褐色や、空・海の青色、草木の緑色など、自然が持つ色合い)などを用い、自然景観との調和を図るようにしましょう。



アースカラーを用い、自然景観と調和している事例(〇〇市)

③ 高彩度色※や色数を抑える

- 高彩度色を大きな面積で使用したものや色数を多く使用したものは、周囲から突出した印象を与え、景観を阻害する要因となります。屋外広告物の色彩は、高彩度色の使用を控え色数を抑えて、周辺のまちなみとの調和や建築物全体のまとまりに配慮しましょう。
- 高彩度色を屋外広告物に使用する場合は、面積を小さくする、建物の低層部で限定的に用いるなど、建物やまちなみの中で効果的なアクセントとなるように工夫しましょう。



高彩度色の使用を控え、色数を抑える。

※高彩度色の解説は右ページを参照

④ 見やすくわかりやすい色彩とする

- 板面の地色と文字色の明度差が小さいものは、文字や図が読みにくくなり、必要な情報が伝わりにくくなります。板面の地色と文字色ではっきりとした明度差をつける、文字を白く縁取るなどすることにより、見やすくわかりやすくなるようにしましょう。



避けたい広告物のイメージ



望ましい広告物のイメージ



板面の地色と文字色に明度差をつける。

Point 色彩の基礎知識「マンセル表色系」

本ガイドラインでは、JIS(日本工業規格)などにも採用されている、国際的な尺度である「マンセル表色系」を採用しています。マンセル表色系とは、色彩を「色相、明度、彩度」の3属性に分け、それぞれを数値等で表すことで客観的に表記したものです。

色相：色合いを表します

R(赤)、Y(黄)、G(緑)、B(青)、P(紫)とその中間のYR(橙)、GY(黄緑)、BG(青緑)、PB(青紫)、RP(赤紫)を加えた10の基本色を記号で表します。



色相

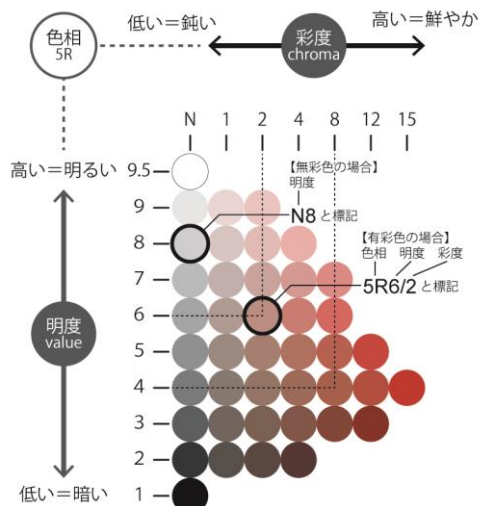
明度：色の明るさを表します

0~10までの数値で表し、数値が大きいほど明るく、小さいほど暗い色彩になります。

彩度：色の鮮やかさを表します

色相や明度に応じて数値で表します。1~15程度までの数値で表し、数値が大きくなるほど鮮やかな色になります。

※ 彩度の高い方の概ね 1/3 を「高彩度色」として扱います。



(4) 照明

【誘導方針】 過剰な照明は控え、周辺環境に調和したものをを用いる。

- 過剰な照明は周辺への影響が大きいことから使用を控えましょう。
- 照明を用いる場合は、周辺環境に調和した色温度・光量としましょう。
- 地域特性に応じて照明を効果的に使用し、魅力的な夜間景観を演出しましょう。

① 過剰な照明を抑える

- 行き過ぎた眩しさ、点滅、高速モーションなどは、人々に不快感を与えるだけでなく、通行人の目をくらませることや信号機の視認性を低下させる危険もあります。照明を用いる場合は、周辺の環境に配慮し、明るさや照明方法が適切となるように工夫しましょう。



箱文字(内照)を使用し、小さい光源で効果的に掲出している事例(大阪市)

② 地域特性に応じて演出する

- 照明は、光の色味や明るさの強弱で印象が変わります。また、照明方法によって様々な雰囲気演出することができます。住宅地の落ち着いた雰囲気、商業地の賑わいなど、地域特性に応じて照明方法を工夫し、夜間景観を魅力的に演出しましょう。



間接照明を用い、夜間景観を魅力的に演出している事例(大阪市)

Point 屋外広告物の照明方法と考え方

照明方法	ネオン式	外照式	内照式①	内照式②	間接照明式
	ガラス管の中にガスを充てんし、電気を通して発光する。	外付けのスポットライト等により表示面をライトアップする。	盤面内部に照明装置を内蔵し、自ら発光する。	箱文字内部に照明装置を内蔵し、自ら発光する。	箱文字の裏面の照明装置により壁面をライトアップする。
事例					
考え方	建物の低層部での使用を基本とし、生活環境への配慮が求められる地域では使用しないこと。	表示面全体を使用することから景観に与える影響が大きい。光源が露出しないようにすること。	表示面全体が発光するため、景観への影響が大きい。大きい面積の使用はできる限り避けること。	小さい光源で自由な色彩表現が可能。企業名やロゴサイン等を表現する場合に用いる。	光源が小さく、周囲に与える影響が少ない。上品な印象を与えることが可能。

(5) 適切な維持管理

【誘導方針】 屋外広告物の適切な点検や維持管理を行い、安全を確保する。

- 適切な点検や維持管理により、安全な屋外広告物を維持しましょう。

① 定期的に点検する

- 屋外広告物が倒壊や落下した場合、歩行者に重大な損害を与える恐れがあります。そのため、屋外広告物の設置者や管理者は、事故を未然に防ぐため、定期的に安全点検を実施しましょう。

② 適切に維持管理する

- 屋外広告物の建物との接合部や支持部分に劣化や損傷があると、強風により落下や移動をしやすくなり、歩行者や自動車との事故につながることもあり得ます。このような事故を未然に防ぐため、設置者や管理者は補修や改修を定期的に行う、危険な状態にある場合は速やかに修繕を行うなど、適切な維持管理を行い、安全な状態を保ちましょう。
- 汚れや退色、塗装の剥がれなどがある広告物は、情報が正確に伝えられず、景観を阻害する要因にもなることから、維持管理を適切に行いましょう。

Point 安全を維持する点検

屋外広告物を安全に維持するために、管理者等による日常の点検のほか、一定規模以上の屋外広告物には有資格者による2年ごとの点検及び報告書の提出が義務付けられています。

国土交通省屋外広告物適正化推進委員会では、屋外広告物の安全管理や魅力ある屋外広告物を推進すべく、普及啓発のためのガイドブックを作成しています。



看板の安全管理
ガイドブック

【屋外広告物の事故】

2015年2月、札幌市内の飲食店ビルの外壁に取付けられた看板の一部が落下し、歩道を通行していた女性の頭部に当たり重傷を負わせる事故が発生しました。

外壁への取付部品が腐食したことで強度が低下し、強風の影響で落下したものとみられており、設置者の安全意識の希薄さ及び管理者の点検が適正に行われていなかったことが主な原因と考えられています。

③ 通行の安全を確保する

- 地上広告物や立看板、広告旗などは、原則として歩道を含む道路上での掲出は禁止されており、道路、道路上空に掲出する場合は、道路管理者の許可が必要になります。敷地内に掲出するとともに、通行の妨げにならないようにしましょう。また、敷地内であっても、適切に固定し強風にも耐えることができるようにするなど、安全に留意した上で掲出しましょう。
- 高さのある地上広告物や外壁の高い位置に設ける屋外広告物を道路沿いに掲出する場合は、道路に設けられた交通標識や信号機と紛らわしい見た目にならないようにし、また、それらの機能の妨げとなることのないように規模・配置・意匠に配慮しましょう。

3. 広告種類別の配慮事項

(1) 屋上広告物

【誘導方針】原則として屋上広告物の掲出は控える。

- 屋上広告物は、遠い場所からでも目につきやすく、まちなみや自然景観の眺望に大きな影響を及ぼすことから、掲出は控えましょう。
- やむを得ず掲出する場合は、まちなみや自然景観(北摂山系等)の眺望に配慮したものにしましょう。

① 掲出を控える

- 建物の上部に掲出される屋上広告は、周囲の建物が形成しているスカイラインを乱し、景観を阻害する要因となるため、掲出を控え、壁面広告物や地上広告物など、他の広告物で代替しましょう。



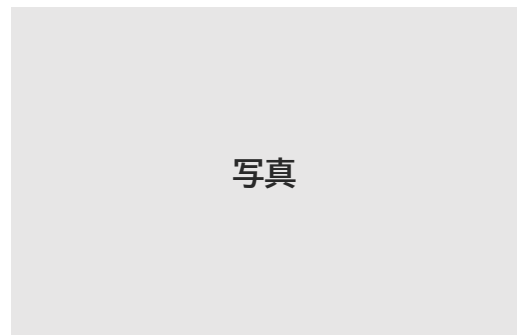
(以下、やむを得ず掲出する場合)

② 建物と一体的に計画する

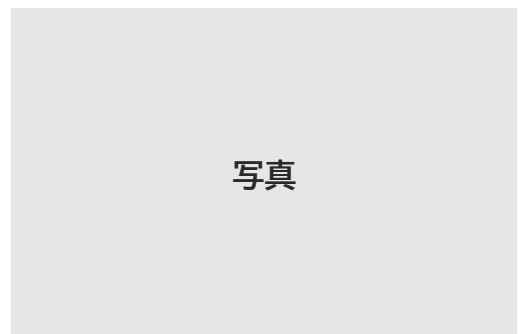
- やむを得ず屋上広告物を掲出する場合は、建物からの突出を抑え、周辺の建物とのスカイラインを揃えるため、掲出する建物と一体的に計画しましょう。

③ まちなみや背景となる自然景観の眺望に調和した意匠とする

- 屋上広告は遠い場所からでも目につきやすいため、まちなみや背景となる自然景観に調和した意匠にしましょう。
- 屋上広告物の板面の地色には、落ち着いた低彩度の色彩を用いましょう。
- 特に背景が自然景観となる場合は、アースカラー(大地のような褐色や、空・海の青色、草木の緑色など、自然が持つ色合い)などを用いましょう。



建物と一体的にデザインされ、すっきりした印象としている事例(〇〇市)



色彩にアースカラーを用いて、自然景観や背景の空と調和している事例(〇〇市)

(2) 壁面広告物

【誘導方針】建物やまちなみに調和した意匠・配置・色彩とする。

- 壁面広告物は建物と一体となって景観を形成することから、建物と一体的に計画し、まとめて配置することなどにより、建物やまちなみに調和したものとしましょう。

① 建物と一体的に計画する

- 建物に付帯する壁面広告物は、建物と一体となって視認されます。建物の意匠と調和していないものは、建物のイメージを損ない、景観を阻害する要因になります。切文字や箱文字などを用いてシンプルな意匠にすることで、建物と一体的な意匠となるように計画しましょう。



切文字を用い、建物と一体的な意匠としている例(大阪市)

② 集約する

- 壁面広告物が無秩序に掲出されている場合、一つの広告物の情報に集中することができず、景観上も乱雑な印象を与えます。複数の壁面広告物を掲出する場合は、効果的な情報伝達や良好な景観形成につながるように、1箇所に集約して配置しましょう。
- 1箇所に集約できない場合は、規則性を意識し、掲出する位置や大きさを整理しましょう。



写真

集約して配置することにより効果的に情報伝達している事例(〇〇市)

③ 建物の低層部に掲出する

- 効果的に情報を伝達するため、建物の高層部には壁面広告物を掲出せず、人の目に入りやすい低層部(1~3階)に掲出しましょう。



写真

低層部に掲出して効果的に情報を伝達している事例(〇〇市)

④ まちなみに調和した形態・意匠・色彩とする

- 周辺のまちなみから突出した形態・意匠にしたり、逸脱した色彩を板面の大部分に使用すると、まちなみのイメージを損ないかねません。良好な景観を形成するため、周辺のまちなみに調和した形態・意匠・色彩となるように工夫しましょう。



写真

まちなみに調和した形態・意匠・色彩として、良好な景観を形成している事例(〇〇市)

(3) 突出広告物

【誘導方針】通りの見通しやまちなみの連続性に配慮する。

- 突出広告物は、建物から突き出して掲出されるため、掲出する場合は、最小限の突出幅とし、通りの見通しやまちなみの連続性に配慮しましょう。

① 突出幅を最小限にする

- 通りの見通しやまちなみの連続性を妨げることがないように、突出幅は最小限にして、整った壁面線を維持しましょう。

② 掲出する位置、配置を整える

- 効果的な情報伝達につながるように、建物の高層部には突出広告物を掲出せず、人の目に入りやすい低層部（1～3階）に掲出しましょう。
- テナントビルなどにおいて、複数の事業者が掲出する場合は、突出幅や形を揃えるなど、規則性を持たせましょう。

③ 整理、集約化する

- 複数の突出広告物を掲出する場合には、必要な情報を整理して、できる限り集約し、すっきりとした印象を与えましょう。

④ 建物やまちなみに調和した形態・意匠・色彩とする

- 建物の意匠と調和していないものや周辺のまちなみから突出した形態・意匠にしたもの、逸脱した色彩を板面の大部分に使用したものは、建物やまちなみのイメージを損ないかねません。良好な景観を形成するため、建物や周辺のまちなみに調和した形態・意匠・色彩となるように工夫しましょう。

イラスト

通りの見通しに配慮し、突出幅を最小限にしている。



建物の低層部に集約配置して、効果的に情報伝達が行われている事例(京都市)

写真

必要な情報を集約して、すっきりとした印象を与えている事例(〇〇市)

写真

まちなみに調和した色彩を用い、良好な景観を形成している事例(〇〇市)

(4) 地上広告物

【誘導方針】通りの見通しやまちなみの連続性に配慮した規模・掲出位置とする。

- 通りの見通しやまちなみの連続性に配慮した規模や掲出位置とするとともに、まちなみや背景に調和したものとしましょう。

① 見通しや連続性に配慮した規模・掲出位置とする

- 地上広告物は通り沿いに掲出される傾向にあり、通りの見通しやまちなみの連続性に影響を与えます。歩行者や自動車運転手等の見通しを妨げないような大きさや高さとし、可能な限り、道路と敷地の境界面から敷地側に後退させて掲出しましょう。

② 整理・集約化する

- 地上広告物には、様々な形態や規模のものがあり、複数掲出すると乱雑な印象を与えます。必要な情報を整理し、できる限り集約化し、すっきりとした印象を与えましょう。

③ まちなみや背景に調和した形態・意匠・色彩とする

- 通りからの見通しの良い場所に掲出された地上広告物は、まちなみや背景と一体となって視認されることから、それらに調和した形態・意匠・色彩としましょう。
- 特に背景が自然景観となる場合は、色彩にアースカラー（大地のような褐色や、空・海の青色、草木の緑色など、自然が持つ色合い）などを用いましょう。

④ 板面以外に配慮する

- 支柱部や支柱の足元など板面の意匠以外の部分も、目に入りやすいものです。支柱や板面の裏側を板面や背景に調和した色彩に着色するなど見え方に配慮しましょう。また、支柱の足元に植栽などを配置することにより、まちなみにうるおいを与えましょう。

写真

見通しを妨げないように高さを低く抑えられている事例(〇〇市)

写真

必要な情報を集約し、すっきりとした印象としている事例(吹田市)

写真

周囲のまちなみと調和するように配置している例(〇〇市)



足元に植栽を配置して、まちなみにうるおいを与えた例(〇〇市)

(5) 窓面利用広告物

【誘導方針】原則として窓面利用広告物の掲出は控える。

- 窓の役割を考慮して、原則として窓面を利用する広告物の掲出は控えましょう。
- やむを得ず掲出する場合は、窓の役割を妨げず、すっきりとした印象を与えましょう。

※窓の内側から外に向けて掲出される広告物(窓内広告物)も同様の配慮が必要です。

① 掲出を控える

- 窓には採光や眺望などの役割があることから、窓面利用広告物の掲出は控え、壁面広告物や立看板など、他の広告物で代替できないか検討しましょう。

(以下、やむを得ず掲出する場合)

② 掲出する方法の工夫をする

- やむを得ず窓面利用広告物を掲出する場合は、窓全面を覆うような設置は控えましょう。可能な限り面積を抑える、シンプルな切文字にする、窓面から離して掲出するなどの工夫をすることで、採光を行い、眺望を確保しましょう。
- 複数の窓面利用広告物が無秩序に掲出されると、乱雑な印象を与えます。複数枚掲出する時は、必要な情報を整理し、掲出する位置、大きさや色彩などを統一して、すっきりとした印象を与えましょう。

写真

窓面利用広告物の設置を控え、立看板で代替している事例(〇〇市)



切文字にするなどして掲出する面積を抑え、窓面から離して掲出している事例(大阪市)

(6) 簡易広告物(広告旗、立看板、はり紙・はり札)

【誘導方針】必要最小限の掲出とし、無秩序な設置は控える。

- 広告旗や立看板、はり紙・はり札などの簡易な広告物は、容易に掲出できますが、乱雑な印象を与えないように無秩序な設置は控えましょう。

(広告旗)

① 必要最小限の掲出とする

- 広告旗は、展示会やセールなど表示内容が限られた期間に関わるものが多いものです。必要な期間のみ掲出し、長期間の設置は控えましょう。

② 通行や見通しを妨げない

- 歩行者や自転車の通行や通りの見通しを妨げないような規模や掲出する位置となるようにしましょう。

(立看板)

① 通行や見通しを妨げない

- 歩行者や自転車の通行や通りの見通しを妨げないような規模とし、敷地内に掲出しましょう。歩道を含む道路への掲出は禁止されています。

(はり紙・はり札)

① 期間を限定し、必要最小限の掲出とする

- はり紙・はり札は容易に掲出できますが、耐久性がなく美観を損ないやすいことから、必要な期間のみ掲出し、長期間の掲出は控えましょう。

② 表示方法を工夫する

- はり紙・はり札を様々な場所に複数枚掲出した場合、景観上、乱雑な印象を与えます。情報を伝えるために必要な最小限の枚数を掲出するようにし、建物等に直接貼り付けず、フレームや掲示板等を使用するなど、集約して掲出するようにしましょう。

写真

同じ情報の複数設置を控え、必要最小限の数としている事例(〇〇市)

写真

歩行者等の通行を妨げないように敷地内に立看板を設置した事例(〇〇市)

写真

フレームを用いて、集約して配置している事例(〇〇市)

(7) 車体利用広告物

【誘導方針】走行する様々な地域の特性に配慮する。

- 電車や路線バスなどの車体の外面を利用した車体利用広告物はまちなかから山間部など異なる特性を持った様々な地域を走行するため、地域特性を把握し、周辺との調和に配慮しましょう。

① 派手な色彩を使用しない

- 車体利用広告物は、まちなかから山間部まで様々な地域を移動することから、それぞれの地域特性に配慮する必要があります。大部分で使用する色彩には、派手な原色や蛍光色、反射率の高い金色・銀色は控えましょう。

写真

地域特性に配慮し、落ち着いた配色としている事例(〇〇市)

② 文字の視認性に配慮する

- 車体利用広告物は走行中に視認される広告物となるため、文字を使用する場合は伝えたい情報を整理し、最小限となるように工夫し、読みやすさに配慮しましょう。



文字の使用を最小限に控え、読みやすさに配慮している事例(〇〇市)

③ 交通安全に配慮する

- 周囲の車両の安全のため、車体のランプと見間違えるおそれのある広告物や発光するものの使用は控えましょう。
- 歩行者や自動車運転手等の交通に対する注意を散漫にさせることがないように、ストーリー性のある広告(4コマ漫画など)や映像の使用は控え、シンプルな意匠としましょう。

写真

交通安全に配慮している事例(〇〇市)

(8) 映像装置付き広告物(デジタルサイネージ)

【誘導方針】周辺環境への影響が最小限となるように掲出する場所や表現方法を工夫する。

- 映像装置付き広告物は、動きや光を伴う広告物となるため、周辺環境に与える影響が他の広告物よりも大きくなります。周辺環境への影響が最小限となるように、掲出する場所や表現方法を工夫しましょう。

※室内から外に向けて掲出される映像装置付き広告物(デジタルサイネージ)も同様の配慮が必要です。

① 周辺環境に配慮し適切な場所を選択する

- 輝度が高く派手なものや音量が大きなものは周辺の環境に大きな影響を与えます。周辺環境への影響を踏まえ、見通しの良い場所、住宅地や山間部などの閑静な場所、掲出することで交通の支障となる交差点付近への設置は控えましょう。

写真

周辺環境に配慮し、商業地の低層部に掲出している事例(〇〇市)

② 建物の高層部に掲出しない

- 高所への設置は広範囲に影響を及ぼすため、建物の高層部への設置は避け、建物の低層部(1~3階)への設置を基本としましょう。

写真

③ 明るさや動きを控える

- 強い光を出すものや点滅するもの、映像が早く切り替わるものは、見る人の集中力を奪い、人を不快にさせることがあります。昼間と夜間で見え方が異なることも考慮して明るさを決め、点滅や動画の使用は極力控えましょう。
- 周辺環境に応じて、適切な消灯時間を設定しましょう。

動画の使用を控え、静止画の切り替えを行っている事例(〇〇市)

写真

④ 音響の使用は最小限とする

- 音響を使用するものは、周辺の雰囲気損なうだけでなく、歩行者や自動車運転手等の注意を散漫にさせます。音響の使用は控えるようにし、使用する場合は最小限の音量となるようにしましょう。

音響の使用を控えている事例(〇〇市)

(9) 公共サイン(公的機関が掲出する広告物)

【誘導方針】誰もが見やすく、わかりやすい表示とする。

- 公共サインは、公共的な目的で掲出されるため、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが見やすく、わかりやすい表示となるようにしましょう。
- 公共サインには、魅力ある都市景観の形成を先導する役割が求められます。

① 文字の表現 (文字のサイズ、書体、文字量、外国語併記)に配慮する

- 公共サインに使用する文字は、高齢者や視覚障害者の方など誰にでも判読しやすいように、視距離に応じた文字サイズとし、書体はユニバーサルデザインに配慮された書体を使用しましょう。
- 情報の簡潔な表示はわかりやすさにつながるため、文字の量やバランス、レイアウトに配慮しましょう。
- 外国人の利用が想定される施設には、英語の併記を行いましょう。施設等の事情により、その他の言語を併記する場合は、表記の分量やバランスに留意しましょう。

② 図記号(ピクトグラム)を使用する

- 図記号は、言語の識別を問わず一見して内容を理解できるため、積極的に使用し、端的にわかりやすく情報を伝えましょう。

③ 景観に調和し、認識しやすい色彩を用いる

- 公共サイン自体が目立つのではなく、周囲の景観に調和しつつ、掲出する情報をわかりやすく伝える色彩を基本としましょう。
- 多様な色覚の人が見ることを想定して、色を組み合わせるときは、誰にとっても視認しやすいものとしましょう。

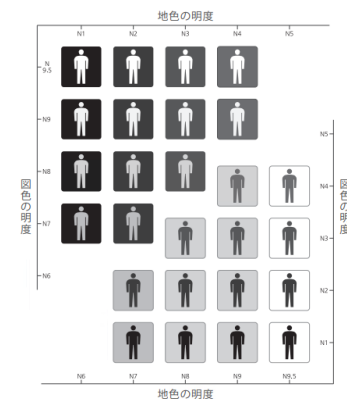
④ 誰もが見やすい高さに掲出する

- 案内地図を掲出する高さは、車椅子利用者と立位の利用者の双方が見やすい「表示面の中心の高さ 1250mm」を基本としましょう。

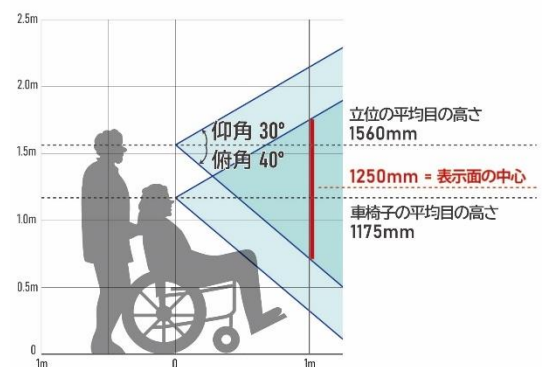
写真

誰もが見やすく、分かりやすい表示にデザインされた公共サインの事例(〇〇市)

・ 地色と図色の対比例



地色と図色の対比



人間からサイン板面までの距離

Point 誰も見やすく、わかりやすい色使いのヒント ～カラーユニバーサルデザイン～

カラーユニバーサルデザインとは

色の見え方は、全ての人において同じではありません。遺伝子のタイプや様々な目の疾患によって色の見え方に違いがある人がいます。色覚障害者は、日本では男性の20人に1人、女性の500人に1人いると言われており、珍しいものではありません。

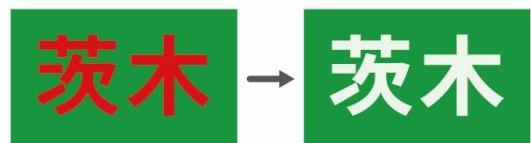
多様な色の見え方を意識して、全ての人に情報が正確に伝わるように配慮された意匠を「カラーユニバーサルデザイン」と言います。

カラーユニバーサルデザインに向けた工夫

■地色と文字色の組合せに配慮する

地色と文字色に、はっきりとした明度差(コントラスト)をつけましょう。

黒、青、緑などの板面に、赤で書かれた文字は読みづらく感じます。背景色を変えることができない場合は、文字を白色、黄色、クリーム色などの明るい色にしましょう。



色が異なっても、明度差がないと読みづらいため、コントラストをつける。

■色の明度差、彩度差を利用する

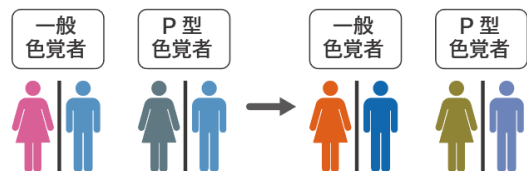
色覚障害者は、色相を見分けることが苦手ですが、色の明度や彩度の差には敏感であることが多いです。色によって表示内容が変わることを表現する際には、色相の変化だけでなく、色の明度差、彩度差による変化を組み合わせましょう。



明度差による組み合わせは分かりやすい。

■彩度の低い色同士の組合せは避ける

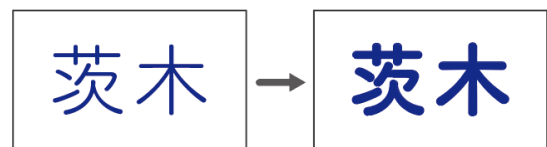
ピンク色と水色などの彩度の低い色を並べて区別を行うと、混同しやすく、判別が困難となる場合があります。彩度の高いはっきりした色同士や、彩度の高い色と彩度の低い色で区別を行いましょう。



ピンク色は赤橙に、水色は彩度の高い水色や青にすると、全ての人が識別しやすくなる。

■色を付ける部分を工夫する

伝えたい情報が書かれている文字に色を付けたら、色を付ける部分の面積を広くするという工夫を行うと、色による見分けがしやすくなります。



文字を太くし、色の面積を広くする。

■色以外の情報を加える

カラーユニバーサルデザインで最も大切なことは、色分けのみにより情報の表示をしないことです。形状の違い、ハッチング、文字、記号などを併用して、色以外の部分によっても情報が得られるようにしましょう。



色以外の情報を加えた地下鉄の路線アイコンの事例

4. 地域別の配慮事項

(1) 住宅地

■ 閑静な住宅地

【誘導方針】落ち着いた生活環境を保全するため、屋外広告物の掲出を控える。

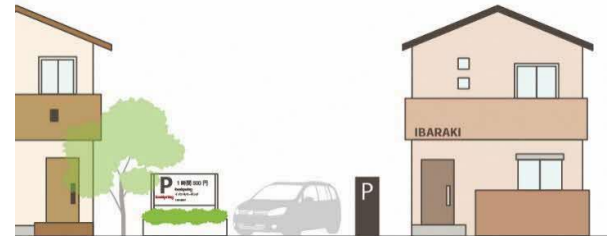
- 戸建て住宅などが集まる閑静な住宅地では、落ち着いた生活環境を損なわないように屋外広告物の掲出は控えましょう。
- やむを得ず屋外広告物を掲出する場合は必要最小限の数とし、周辺の環境に配慮した規模や色彩、配置にしましょう。



避けたい広告物のイメージ



望ましい広告物のイメージ



① 掲出を控える

- 地域住民の生活の場となる住宅地では、生活環境を損なわないようにするため、屋外広告物の掲出は原則として控えましょう。

(以下、やむを得ず掲出する場合)

② まちなみに調和させる

- やむを得ず屋外広告物を掲出する場合は必要最小限の設置数とし、規模は小さなものとしましょう。また、色彩は、まちなみに調和するような低彩度のものを用いましょう。



低彩度の色彩を用い、まちなみに調和している事例(〇〇市)

③ 照明の使用は最小限とする

- 照明の使用は、生活環境を損なわないように必要最小限とし、特に、眩しさを感じる不快な光や、点滅する光、高速モーションの光の使用は控えましょう。
- 深夜帯には消灯するなど、生活環境に配慮しましょう。



最小限の照明を用い、生活環境と調和している事例(〇〇市)

■ 商業施設が混在する住宅地

【誘導方針】住宅地の生活環境に調和した規模・配置・色彩とする。

- 住宅地としての落ち着いた生活環境が阻害されないように、周辺的环境に配慮した規模や配置、色彩にしましょう。



避けたい広告物のイメージ



望ましい広告物のイメージ



① 規模を抑える

- 建物の高層部に設置される屋外広告物は規模が大きくなる傾向にあり、まちなみに与える影響が大きいため掲出は控えましょう。
- やむを得ず掲出する場合は、切文字や箱文字などを用いて規模を抑えましょう。

② 建物の低層部に集約する

- 歩行者は一般的に4階以上には目が届きにくいと言われているため、効果的な情報伝達ができるように建物の低層部(1～3階)に集約しましょう。

③ 建物やまちなみに調和した形態・意匠・色彩とする

- 広告物を建物の意匠や周辺のまちなみと調和していない形態・意匠にしたり、逸脱した色彩を板面の大部分に使用すると、まちなみのイメージを損ないます。
- 良好な景観を形成するため、建物や周辺のまちなみに調和した形態・意匠・色彩となるように工夫しましょう。

写真

切文字を用い、まちなみに与える影響を小さくしている事例(〇〇市)

写真

低層部に集約して、効果的に情報伝達している事例(〇〇市)

写真

住宅地に調和した色彩を用い、良好な景観を形成している事例(〇〇市)

(2) 商業地

■ 駅前広場

【誘導方針】周囲から突出して目立つことは避け、品格と賑わいが感じられる表示とする。

- 駅前広場は市の玄関口として市民や来訪者が多く訪れ、商業施設などが立地します。市の顔にふさわしい品格と賑わいが感じられる魅力的な景観を演出しましょう。



避けたい広告物のイメージ



望ましい広告物のイメージ



① 品格を高める

- 屋上広告物や規模の大きな壁面広告物は、まちなみに圧迫感を与えます。切文字や箱文字などのシンプルな表示で代替しましょう。
- 駅前の建物に窓面利用広告物が多く掲出されるとまちなみが雑多な印象となるため、窓面利用広告物の掲出は控えましょう。
- まちなみに調和するように低彩度の色彩を使用して、すっきりとした表示としましょう。
- 屋外広告物の照明は、行き過ぎた眩しさや点滅を控えることにより、魅力的な夜間景観を演出しましょう。

② 賑わいの連続性を創出する

- 駅前広場には市民や来訪者が多く訪れます。人の目に入りやすい建物の低層部(1~3階)に屋外広告物を集約し、効果的に情報を伝えるようにしましょう。
- 隣接する建物と屋外広告物の掲出位置や大きさ、形態等を揃えることで連続的な賑わいを演出しましょう。

写真

切文字を用い、シンプルな表示としている事例(〇〇市)

写真

間接照明を用い、魅力的な夜間景観を演出している事例(〇〇市)

写真

隣接する建物と形態を揃えて、連続的な賑わいを演出している事例(〇〇市)

■ 駅から延びるメインストリート

【誘導方針】通りの見通しに配慮しつつ、賑わいの連続性を創出する。

- 駅から延びるメインストリートに掲出する屋外広告物は、沿道の建物や街路樹などの通りの景観を活かした意匠とし、賑わいの連続性を創出しましょう。



避けたい広告物のイメージ



望ましい広告物のイメージ



① 賑わいの連続性を創出する

- 歩行者の視線を意識し、低層部に掲出することで賑わいを創出し、効果的に情報を伝達しましょう。
- 隣接する店舗同士で屋外広告物の掲出位置や大きさを揃えることにより、賑わいの連続性を創出しましょう。

② 通りの見通しを妨げない

- 通りの見通しを妨げることがないように、突出広告物は突出し幅や大きさを揃え、その他の広告物は切文字や箱文字などの規模の小さなものを使用しましょう。
- 複数の屋外広告物は集合化するなど、まちの骨格として秩序ある空間としましょう。

③ 建物の低層部に集約する

- 歩行者は一般的に4階以上には目が届きにくいと言われているため、効果的な情報伝達ができるように建物の低層部(1~3階)に集約しましょう。

写真

低層部に集約して設置することで効果的に情報を伝達している事例(〇〇市)

写真

切文字を使用することにより通りの見通しが良好となっている事例(〇〇市)

写真

隣接する店舗で掲出位置を揃え、賑わいの連続性を創出している事例(〇〇市)

コラム挿入予定

(3) 工業地

【誘導方針】建物や周辺環境に調和したものとする。

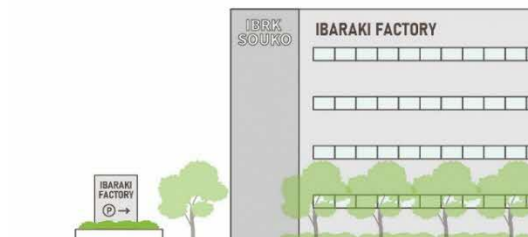
- 工業地では、建物規模に合わせて規模の大きな屋外広告物が掲出される傾向にあります。周囲に圧迫感を与えないように配慮するとともに、周辺環境との調和を図りましょう。



避けたい広告物のイメージ



望ましい広告物のイメージ



① 圧迫感を抑える

- 大規模な倉庫や工場が立ち並ぶ工業地では、建物規模に合わせて大きな規模の屋外広告物が掲出されると周囲に圧迫感を与えます。屋外広告物を掲出する際は圧迫感を与えないような適切な規模となるようにしましょう。

写真

箱文字を用い、圧迫感を与えない規模としている事例(〇〇市)

② 周辺環境に配慮し、建物と一体的に計画する

- 建物の設計の段階で広告物の計画を行い、建物との一体化を図りましょう。
- 周辺環境に配慮し、切文字や箱文字を使用するなどシンプルな意匠・色数となるようにしましょう。
- 複数の広告物を掲出する場合は、乱雑な印象を与えないように1つに集約しましょう。

写真

〇〇を用い、シンプルな意匠としている事例(〇〇市)

③ うるおいを与える工夫をする

- 地上広告物を掲出する場合は、足元に植栽を配置するなどして、単調になりがちな景観にうるおいを与える工夫をしましょう。



足元に植栽を配置し景観にうるおいを与えている事例(京都市)

(4) 幹線道路沿道

【誘導方針】見通し景観に配慮し、秩序のある沿道空間を創出する。

- 見通し景観に配慮し、規模や掲出する位置などを工夫しましょう。周辺環境に調和した秩序のある沿道空間を創出しましょう。

✕ 避けたい広告物のイメージ



○ 望ましい広告物のイメージ



① 見通しや連続性に配慮した規模・配置とする

- 沿道の街路樹などが形成する見通し景観を阻害しないように、屋外広告物の規模は小さくし、可能な限り道路と敷地の境界面から敷地側に後退させて掲出し、高さを低くしましょう。
- 自動車運転手等の視界に入れるために様々な大きさや形態の屋外広告物が掲出されると、どの広告物を見れば良いのかわかりにくく、景観にも乱雑な印象を与えます。必要最小限の数に抑え、集約して掲出して、見通しの景観としてすっきりとした印象を与えるとともに、効果的に情報を伝えましょう。

写真

規模を小さく、見通し良好となっている事例(〇〇市)

② 沿道景観に調和し、秩序のある形態・意匠・色彩とする

- 広告物を沿道景観と調和していない形態・意匠にしたり、逸脱した色彩を用いた場合、沿道景観のイメージを損ないます。良好な景観を形成するため、沿道景観に調和し、秩序のある形態・意匠・色彩となるように工夫しましょう。

写真

集約して設置することですっきりとした印象となっている事例(〇〇市)

③ 交通安全を妨げない

- 大きく派手な屋外広告物は、交通標識や信号機などの視認性に影響を与えます。大きさや色彩などは交通安全を妨げないものとしましょう。

写真

沿道景観に調和した色彩を使用して良好な景観を形成している事例(〇〇市)

(5) 山間部

【誘導方針】原則として屋外広告物の掲出は控え、掲出する場合は豊かな自然景観(北摂山系等)の眺望を妨げないようにする。

- 北摂山系の山並みなど豊かな自然景観を維持するために、屋外広告物の掲出は控えましょう。



避けたい広告物のイメージ



望ましい広告物のイメージ

① 掲出を控える

- 北摂山系の山並みなど豊かな自然景観が残されている地域では、それらを維持するために屋外広告物の掲出は原則として控えましょう。

(以下、やむを得ず掲出する場合)

② 自然景観に調和した規模・色彩・素材とする

- やむを得ず屋外広告物を掲出する場合は、自然景観を阻害しないように規模を小さくし、色彩にアースカラー(大地のような褐色や、空・海の青色、草木の緑色など、自然が持つ色合い)などを用い、自然素材を使用しましょう。



自然素材を使用して自然景観に調和させている事例(〇〇市)

③ 適切に維持管理する

- 風雨に晒され汚れや退色、塗装の剥がれが生じた屋外広告物は、必要な情報が伝わらないだけでなく、景観を阻害する要因にもなります。定期的に点検し、適切に維持管理を行いましょう。
- 維持管理が行いやすいように、あらかじめメンテナンスのしやすい素材を選ぶなど工夫しましょう。

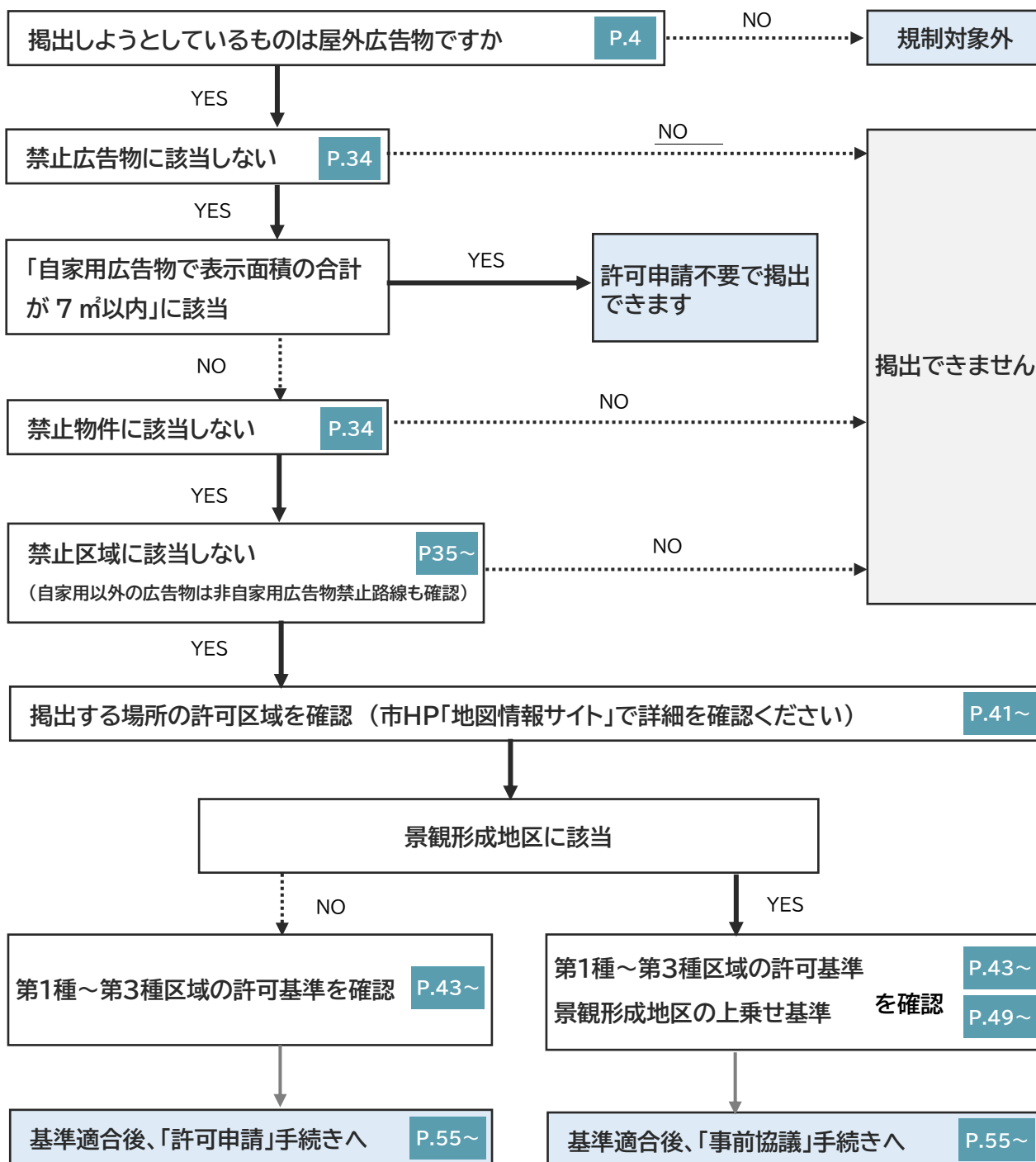


メンテナンスのしやすい素材で、適切に維持管理されている事例(〇〇市)

5. 茨木市屋外広告物条例による規制内容

屋外広告物を掲出するための確認フロー

屋外広告物の掲出する前に、フロー図に沿って屋外広告物の掲出手順を確認してください。



※上記「禁止物件」「禁止区域」「許可」については、適用除外の対象となる場合があります。適用除外の対象、基準、届出の必要性等については、P37～P40をご確認ください。

(1) 禁止広告物

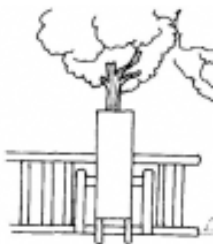
次に該当する広告物は掲出できません。

- ① 著しく汚染し、退色し、又は塗料等のはく離したものの
- ② 著しく破損し、又は老朽化したものの
- ③ 倒壊又は落下のおそれがあるものの
- ④ 信号機若しくは道路標識に類似し、又はこれらの効用を妨げるおそれのあるものの
- ⑤ 道路交通の安全を阻害するおそれのあるものの

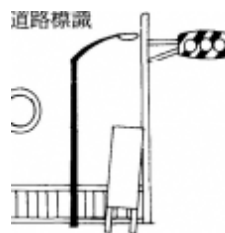
(2) 禁止物件

次の物件には、広告物の掲出が禁止されています。ただし、適用除外広告物(P37～P40参照)は、この限りではありません。

- ① 街路樹、路傍樹
- ② 橋梁、地下道の上屋
- ③ トンネル、高架構造物、道路の分離帯、道路・鉄道の擁壁
- ④ 街灯、信号機、道路標識
- ⑤ 道路上の棚、駒止め
- ⑥ 消火栓、火災報知器
- ⑦ 郵便ポスト、電話ボックス
- ⑧ 送電塔、送受信塔
- ⑨ 形像、記念碑
- ⑩ 景観法第19条第1項の規定により指定された景観重要建造物及び同法第28条第1項の規定により指定された景観重要樹木



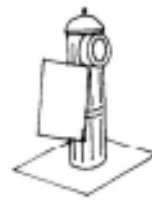
街路樹



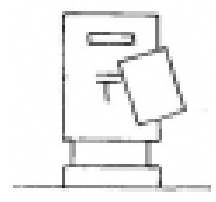
街灯



信号機・道路標識



消火栓



郵便ポスト

(3) 禁止区域

① 禁止区域

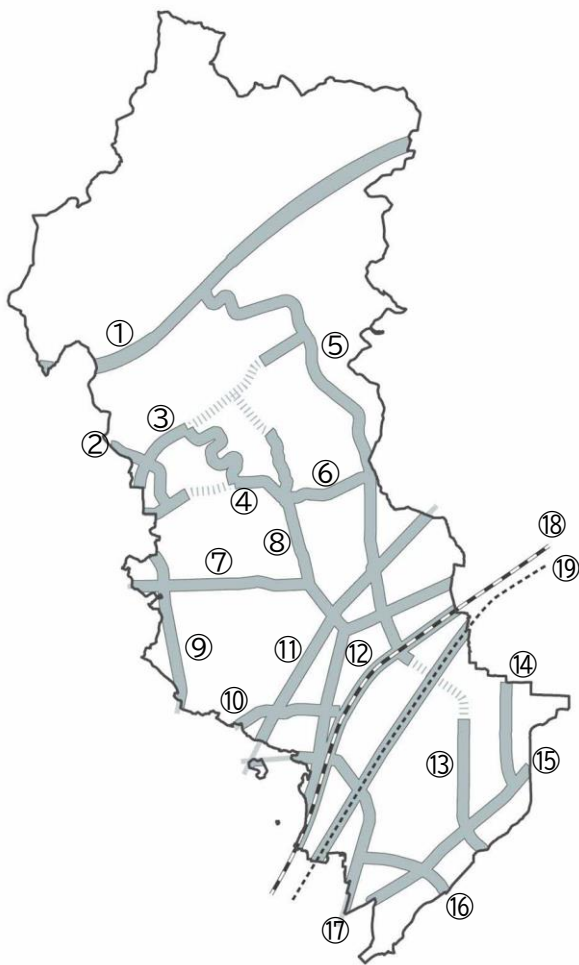
禁止区域は、良好な景観を形成し、または風致を維持することが特に強く要請される区域で、広告物を掲出できません。(適用除外広告物P37～P40参照)は除きます)


関連法令		禁止区域
都市計画法		<ul style="list-style-type: none"> ・第1種低層住居専用地域 ・第2種低層住居専用地域
文化財保護法		<ul style="list-style-type: none"> ・重要文化財(建造物に限る)に指定された敷地 ・史跡・名勝・天然記念物に指定または仮指定された地域
文化財保護条例	府指定	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府指定有形文化財(建造物に限る)の敷地 ・大阪府指定史跡、大阪府指定名勝、大阪府指定天然記念物の地域
	市指定	<ul style="list-style-type: none"> ・茨木市指定有形文化財又は茨木市指定有形民俗文化財に指定された建造物の敷地及びその周辺の地域で市長が指定するもの ・茨木市指定史跡、茨木市指定名勝、茨木市指定天然記念物の地域
森林法		<ul style="list-style-type: none"> ・保安林の区域
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・古墳及び墓地

② 非自家用広告物禁止路線

下記の道路と鉄道とその両側100mの範囲(19路線)では自家用広告物以外は掲出できません。(ただし、商業系地域は除きます)





凡例	
	非自家用広告物禁止区域 ※各路線のうち、未供用区間(点線)は除く

番号	路線名
①	新名神高速道路
②	(都)国文都市4号線
③	(都)茨木箕面丘陵線
④	(都)国文都市3号線
⑤	(都)大岩線+(都)耳原大岩線
⑥	(都)山麓線
⑦	一般国道171号
⑧	(都)上郡佐保線
⑨	府道1号 茨木摂津線
⑩	府道129号 南千里茨木停車場線
⑪	名神高速道路
⑫	府道14号 大阪高槻京都線
⑬	(都)茨木寝屋川線
⑭	府道133号 鳥飼八丁富田線
⑮	府道14号 大阪高槻京都線
⑯	(都)千里丘寝屋川線
⑰	府道2号 大阪中央環状線
⑱	JR東海道本線
⑲	阪急電鉄京都線

(4) 適用除外

社会生活を営む上で必要性の高い広告物は、各種規制(禁止物件、禁止区域、許可区域、表示方法等の制限区域、表示方法等の制限物件)の適用が全部または一部除外されます。(条例第9条)

適用除外の対象となる広告物		除外の内容(除外されるものが○)					
		許可申請	禁止物件の設置	禁止区域への設置	許可区域への設置	表示方法等の制限物件	表示方法等の制限区域
(1)	 <p>公職選挙法など、法令の規定により掲出するもの</p>	不要	○	○	○	○	○
(2)	<p>道先案内図その他公共上やむを得ないもので、公共団体又は公益法人その他これに類する団体が掲出するもの</p>	不要	○	○	○	○	○
(3)	 <p>自家用広告物で、表示面積(同一の土地、建築物、工作物に複数の広告物を掲出する場合はその合計)が7㎡を超えないもの</p>	不要	○	○	○	○	○
(4)	 <p>冠婚葬祭又は祭礼のため、一時的に掲出するもの</p>	不要	○	○	○	○	○
(5)	 <p>講演会、展覧会、音楽会その他これらに類する催物のため、その会場の敷地内に掲出するもの</p>	不要	○	○	○	○	○
(6)	 <p>駐車場の場所を示す看板など、土地や施設の管理上の必要に基づき掲出するもの</p>	不要	×	○	○	×	○

5

茨木市屋外広告物条例による規制内容

基準	その他	条例の項号
—	—	1項 1号 1項 2号
—	面積が 40 m ² を超える広告塔・ 広告板は、届出が必要	1項 3号
—	—	1項 4号
—	—	1項 5号
—	—	1項 6号
表示面積：7m ² 以内 掲出位置：地上から上端まで5m以内	—	2項 1号

適用除外の対象となる広告物		除外の内容					
		許可申請	禁止物件の設置	禁止区域への設置	許可区域への設置	表示方法等の制限物件	表示方法等の制限区域
(7)	 <p>公益上必要な施設又は物件に寄贈者名等を掲出するもの</p>	不要	×	○	○	×	○
(8)	<p>道先案内図その他の公衆の利便に供するもの</p>	要	×	○	×	×	○
(9)	<p>学校・図書館などの教育文化施設、病院などの医療施設や保育所などの社会福祉施設に掲出する自家用広告物</p>	要	×	○	×	×	×
(10)	 <p>電柱、電話柱又は停留所標識を利用するもの</p>	要	×	○	○		
(11)	<p>車両、船舶、航空機等に掲出するもの</p>	不要	×	×	○	×	×
(12)	<p>規則で定めるはり紙、はり札又は立看板であって、掲出期間が30日を超えないもの</p>	不要	×	×	○	×	×

基準	その他	対象条例
寄贈者名等の表示面積:0.5㎡以内 広告物の表示面積:表示方向から見て、当該施設の外郭線内を1平面とみなした場合の当該面の面積の1/20以内	—	2項2号
表示面積:5㎡以内 掲出位置:地上から上端まで5m以内	掲出個数は2個まで	2項3号
—	—	2項4号
—	—	2項5号
—	—	2項6号
(1) はり紙、はり札 縦:1.2m以内 横:0.8m以内 (2) 広告旗 縦:1.2m以内 横:0.8m以内 (3) 立看板 縦:2.0m以内(脚部を含む) 横:1.5m以内	明示事項 ・設置者又は管理者の氏名、名称及び連絡先 ・表示期間の始期終期(30日以内)	2項7号

(5) 許可区域

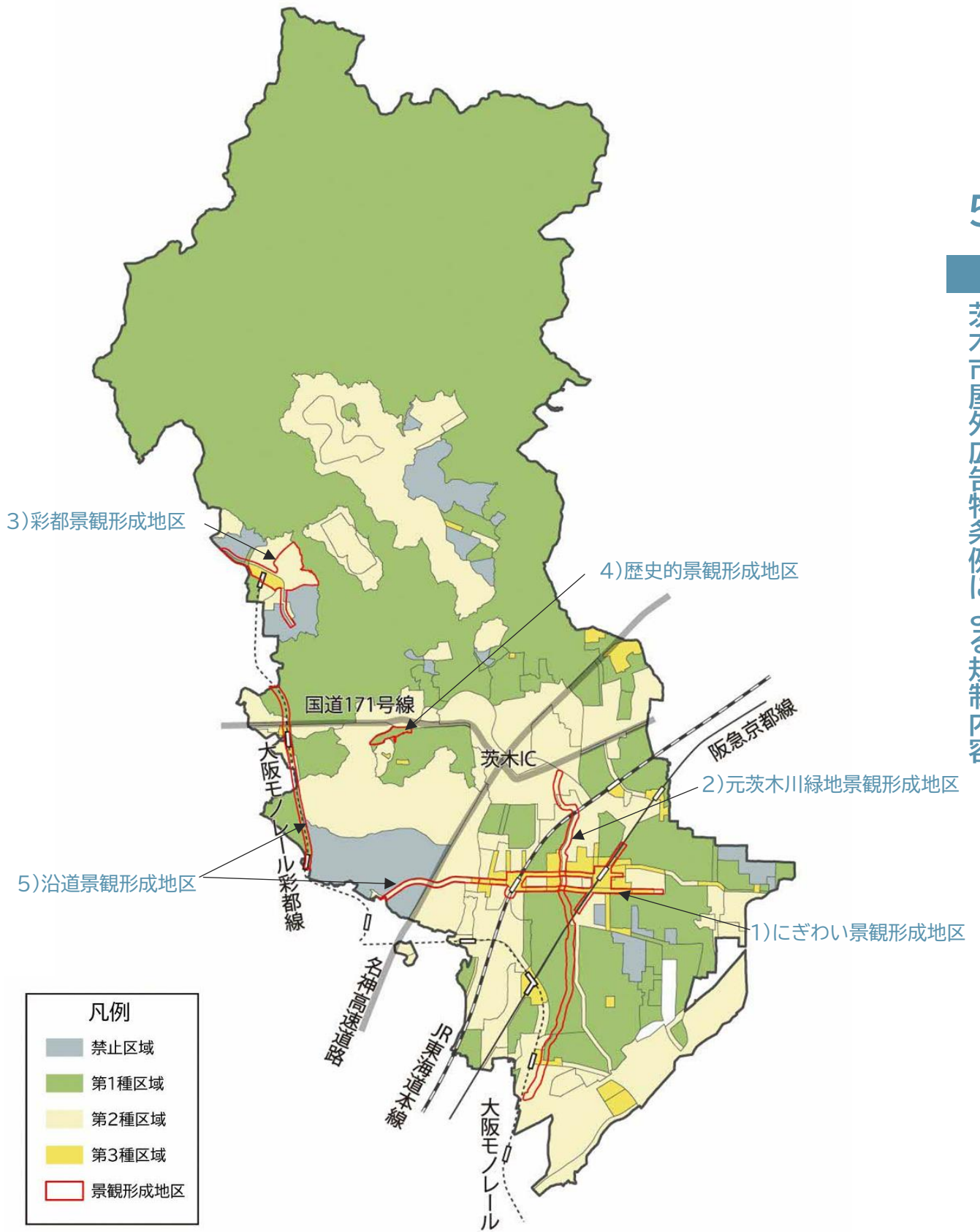
許可区域とは、良好な景観を形成し、または風致を維持するため、広告物を掲出するには、市長の許可を必要とする区域です。特に重点的に景観形成を図る必要がある地区を景観形成地区に指定し、地域の特性に応じて、重点的な許可基準を設けています。

屋外広告物を掲出する場所の区域を確認してください

土地利用の特性 に応じた区分	許可区域		
	第1種区域 住宅地の落ち着きのあるまちなみや、北摂山系の山なみ、田園風景が広がるエリア	住居系地区など ・第一種中高層住居専用地域 ・第二種中高層住居専用地域 ・一部の市街化調整区域	P43
	第2種区域 大規模な工場やマンション、幹線道路沿いの商業施設などのダイナミックなまちなみが広がるエリア	住居系地域、工業系地域など ・第一種住居地域 ・第二種住居地域 ・準住居地域 ・準工業地域 ・工業地域 ・工業専用地域 ・一部の市街化調整区域	P45
	第3種区域 茨木市の玄関口としての品格のあるまちなみや商業の賑わいのあるまちなみを形成するエリア	商業系地域 ・近隣商業地域 ・商業地域	P47



景観計画の 景観形成地区	許可区域+景観形成地区				
		2種	3種	1) にぎわい景観形成地区	P49
1種	2種	3種	2) 元茨木川緑地景観形成地区	P51	
1種	2種	3種	3) 彩都景観形成地区	P52	
1種			4) 歴史的景観形成地区	P53	
1種	2種	3種	5) 沿道景観形成地区	P54	



許可区域図

(6) 許可基準と配慮事項

1) 第1種区域

区域 特性

第1種区域は、住宅地の落ち着いたあるまちなみや、北摂山系の山なみ、田園風景が広がるエリアです。



第1種区域の許可基準

屋上広告物	縦幅:建物高さの1/5以内(支柱等も縦幅に含む) 横幅:建物の幅の範囲内 その他:外壁の延長面からの突出禁止
壁面広告物	縦幅:建物高さの1/2以内 横幅:建物の幅の範囲内 総表示面積:同一壁面面積の1/5以内 その他:壁面から水平方向への突出禁止
地上広告物	総表示面積:20㎡以内 ※表示面が片面の場合、1面あたり10㎡以内 上端までの高さ:地上から10m以内
突出広告物	上端:建物の高さを超えない 下端までの高さ:車道上4.7m以上、歩道上2.5m以上 道路上への突出幅:1.0m以内
工作物利用広告物	縦幅:工作物の高さ以内 横幅:工作物の幅の範囲内 総表示面積:同一壁面面積の1/5以内 その他:工作物の上端、側端からの突出禁止

第1種区域の配慮事項(住宅地と周囲に自然や田園のあるまちなみ)

【誘導方針】住宅地の生活環境や豊かな自然景観への影響が最小限となるように配慮する。

- 住宅地の落ち着きのあるまちなみや周辺に見える北摂山系の山なみ、田園風景との調和に配慮しましょう。

① 掲出を控える

- 地域住民の生活の場となる住宅地では、生活環境を損なわないようにするため、屋外広告物の掲出は控えましょう。
- 北摂山系の山並みなど豊かな自然景観が残されている地域では、それらを維持するために屋外広告物の掲出は控えましょう。

(以下、やむを得ず掲出する場合)

② 自然景観に調和した意匠・規模、配置、色彩にする

- やむを得ず屋外広告物を掲出する場合は、自然景観を阻害しないように自然素材を使用し、規模を小さくし、集約して掲出して、色彩にアースカラー(大地のような褐色や、空・海の青色、草木の緑色など、自然が持つ色合い)などを用いましょう。

③ 夜間照明の使用は最小限にする

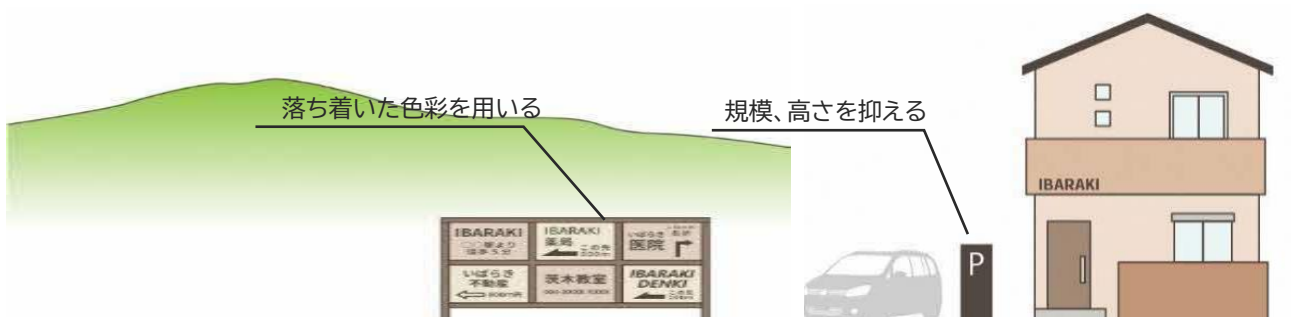
- 照明を用いる場合は、生活環境を損なわないように必要最小限とし、まちなみの雰囲気演出する温かみのある照明にしましょう。
- 眩しさを感じる不快な光や、点滅する光、高速モーションの光の使用は控えましょう。深夜帯には消灯するなど、生活環境に配慮しましょう。



自然素材を使用し、自然景観と調和している事例(〇〇市)

写真

温かみのある照明を使用し、まちなみの雰囲気演出している事例(〇〇市)



2) 第2種区域

区域 特性

第2種区域は、大規模な工場やマンション、幹線道路沿いの商業施設などのダイナミックなまちなみが広がるエリアです。



第2種区域の許可基準

屋上広告物	縦幅:建物高さの1/5以内(支柱等も縦幅に含む) 横幅:建物の幅の範囲内
壁面広告物	縦幅:建物高さの1/2以内 横幅:建物の幅の範囲内 総表示面積:同一壁面面積の1/5以内 その他:壁面から水平方向への突出禁止
地上広告物	総表示面積:30㎡以内 ※表示面が片面の場合、1面あたり10㎡以内 上端までの高さ:地上から15m以内
突出広告物	上端:建物の高さを超えない 下端までの高さ:車道上4.7m以上、歩道上2.5m以上 道路上への突出幅:1.0m以内
工作物利用広告物	縦幅:工作物の高さ以内 横幅:工作物の幅の範囲内 総表示面積:同一壁面面積の1/5以内 その他:工作物の上端、側端からの突出禁止

第2種区域の配慮事項(道路沿道に店舗や倉庫等のあるまちなみ)

【誘導方針】通りの見通しや沿道のまちなみの連続性を妨げない規模、配置にする。

- 道路沿道には商業施設や倉庫、工場など、多様な施設が立地しています。屋外広告物を設置する場合は、周囲に圧迫感を与えないように配慮するとともに、道路沿道のまちなみとの調和に配慮しましょう。

① 見通しを妨げない

- 沿道の街路樹などが形成する見通し景観を阻害しないように、屋外広告物の規模は小さくし、可能な限り道路と敷地の境界面から敷地側に後退させて掲出しましょう。
- 自動車運転手等の視界に入れるために様々な大きさや形態の屋外広告物が掲出されると、どの広告物を見れば良いのかわかりにくく、景観にも乱雑な印象を与えます。必要最小限の数に抑え、集約して掲出して、見通しの景観としてすっきりとした印象を与えるとともに、効果的に情報を伝えましょう。

② まちなみの連続性を妨げない

- 通りの見通しを妨げることがないように、突出広告物は突出し幅や大きさを揃え、その他の広告物は切文字や箱文字などの規模の小さなものを使用しましょう。

③ まちなみに調和した色彩にする

- 屋外広告物に沿道景観に調和しない色彩を用いた場合、周囲から突出した印象を与えてしまいます。低彩度の色彩を使用するなどして、沿道景観との調和を図りましょう。

写真

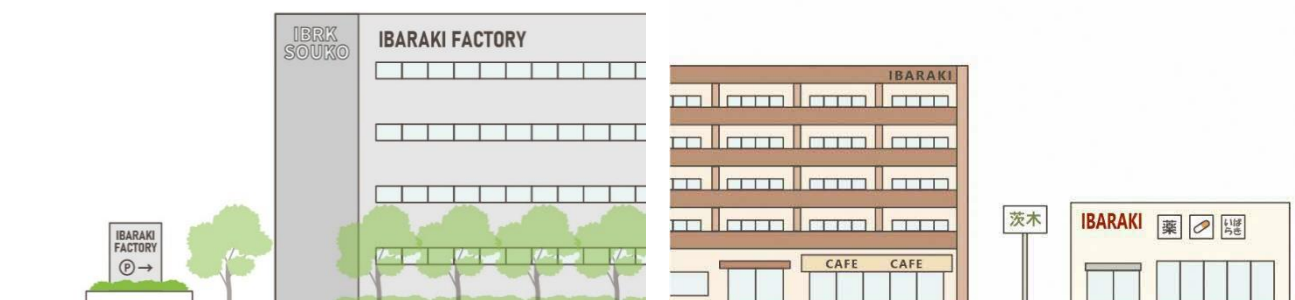
規模を小さくし、後退させて設置することで見通し景観が良好となっている事例(〇〇市)

写真

集約して設置することで見通し景観がすっきりとした印象となっている事例(〇〇市)

写真

低彩度の色彩を用い、沿道景観に調和している事例(〇〇市)



3) 第3種区域

区域 特性

第3種区域は、茨木市の玄関口としての品格のあるまちなみや商業の賑わいのあるまちなみを形成するエリアです。



第3種区域の許可基準

屋上広告物	縦幅:建物高さの1/3以内(支柱等も縦幅に含む) 横幅:建物の幅の範囲内 その他:外壁の延長面からの突出禁止
壁面広告物	縦幅:建物高さ以内 横幅:建物の幅の範囲内 総表示面積:同一壁面面積の1/3以内 その他:壁面から水平方向への突出禁止
地上広告物	総表示面積:30㎡以内 ※表示面が片面の場合、1面あたり10㎡以内 上端までの高さ:地上から15m以内
突出広告物	上端:建物の高さを超えない 下端までの高さ:車道上4.7m以上、歩道上2.5m以上 道路上への突出幅:1.0m以内
工作物利用広告物	縦幅:工作物の高さ以内 横幅:工作物の幅の範囲内 総表示面積:同一壁面面積の1/3以内 その他:工作物の上端、側端からの突出禁止

第3種区域の配慮事項(商業地の賑わいのあるまちなみ)

【誘導方針】周囲から突出して目立つことは避け、品格と賑わいを感じられる表示とする。

○ 歩いて楽しいまちなみになるように、連続的に賑わいを形成するように配慮しましょう。

① 賑わいの連続性を創出する

- 人の目に入りやすい建物の低層部(1~3階)に屋外広告物を集約し、効果的に情報を伝えるようにしましょう。
- 隣接する建物と屋外広告物の掲出位置や大きさ、形態等を揃えることで連続的な賑わいを演出しましょう。

② 通りの見通しを妨げない

- 通りの見通しを妨げることがないように、突出広告物は突出し幅や大きさを揃え、その他の広告物は切文字や箱文字などの規模の小さなものを使用しましょう。

③ まちなみに調和した色彩にする

- 彩度の高い色彩は使用面積を抑え、まちなみに調和するように低彩度の色彩を使用して、すっきりとした表示としましょう。

④ 魅力的な夜間景観を演出する

- 屋外広告物の照明は、賑わいを感じられるものを用いることにより、魅力的な夜間景観を演出しましょう。

写真

形態等を揃えて連続的な賑わいを演出している事例(〇〇市)

写真

切文字を用いて通りの見通しが良好となっている事例(〇〇市)



賑わいを感じられる照明を用いて、魅力的な夜間景観を演出している事例(枚方市)



(7) 景観形成地区の重点規制基準

景観形成地区に応じて重点規制基準に適合しているかどうかを確認してください

1) にぎわい景観形成地区

阪急茨木市駅及び JR 茨木駅の周辺と、それらをつなぐ中央通りと東西通りで構成され、中心市街地として市民や来訪者が活気や賑わいを感じられる区域です。



■ にぎわい景観形成地区の重点規制基準(第2・3種区域の許可基準に上乘せ)

第2・3種区域 の許可基準	+	景観形成地区の重点規制基準		
		屋上広告物	表示面積	1面あたり30㎡以下
		壁面広告物	表示面積	1面あたり30㎡以下

■ にぎわい景観形成地区の配慮事項

【誘導方針】活気ある通りの賑わいのなかにも、心地よさとまちの品格を感じさせるまちなみにする。

- 通りの賑わいを繋げつつ心地よさやまちの品格を感じられるように、意匠や掲出方法を工夫しましょう。

① 通りの活気を創出する

- 通りに面した場所に屋外広告物を掲出する場合は、歩行者が見やすい位置に掲出し、通りの活気を創出するような意匠にしましょう。



歩行者が見やすい位置に設置し、通りの活気を創出している事例(大阪市)

② 店先の広告物に植栽を添える

- 店先に掲出する屋外広告物等には植栽を添えるなどして、心地よさを感じられるようにしましょう。

④ 店内と一体的に演出する

- 通りから見える店内と屋外広告物は一体となって店舗のイメージを形成し、まちなみを構成します。品格を感じさせる街並みの一部となるような店舗を演出するため、屋外広告物の掲出方法などを工夫しましょう。

写真

植栽を添えて心地よさを感じられるようにしている事例(〇〇市)

写真

設置方法を工夫し、店内と一体的に演出している事例(〇〇市)

東西軸ストリートデザインガイドライン

茨木市の中心市街地では、様々な拠点施設が更新時期を迎えています。本市ではこれを契機と捉え、各拠点施設の更新にあわせて、ストリートの利活用やデザインを通して各拠点をつなぎ、より魅力的なまちなかの形成を目指しています。

このような背景のもと、市のメインストリートである中央通りと東西通りを対象に、道路・沿道空間のあり方やデザインの指針、実現に向けた方策等を示した「東西軸ストリートデザインガイドライン」を策定しています。

中央通りと東西通りでの屋外広告物の設置にあたっては、「東西軸ストリートデザインガイドライン」も参考にして、通りの特性に配慮し、通りの魅力の向上につながる屋外広告物のデザインを積極的に採り入れましょう。

【東西軸ストリートデザインガイドライン】

目指すべき将来像

人が主役になり、まちの魅力をつなぐ^{つな}”次ぐ”2つのメインストリート

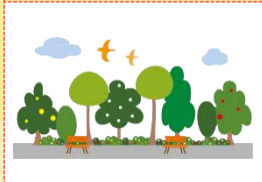
市役所、おにクル、元茨木川緑地などがある中心部と両駅をつなぐメインストリートとして、目的地へ向かう期待感や魅力的な雰囲気を出す空間をデザインし、各拠点の魅力をまち全体に広げていく。

将来像を実現する上で重視する4つの視点

人と人との
“ワン・コミュニケーション”を
楽しめる



沿道の賑わいや季節を
感じ、“ワクワク”が高まり
歩きたくなる



まちなかの個性が
つながり、“ふらっと”
歩き回りたくなる



ゆったり並んで、
安全・安心に
歩きやすい



●将来像のイメージ

中央通り



賑わいと交流を育む
親しみやすいデザイン

東西通り



身近に潤いを感じる良質で
落ち着いたデザイン

2) 元茨木川緑地景観形成地区

元茨木川緑地は旧河川跡地を活用した緑地で、豊富な植栽や樹間を通る道路や緑道が特徴的です。この緑地は、市街地を南北に縦断し、都心部にうるおいを与える空間として市民に親しまれています。



■ 元茨木川緑地景観形成地区の重点規制基準(第1～3種区域の許可基準に上乘せ)

第1～3種区域の許可基準	+	景観形成地区の重点規制基準		
		屋上広告物	表示面積	1面あたり30㎡以下
		壁面広告物	表示面積	1面あたり30㎡以下
	共通	色彩	広告物板面の地色の色彩は、色相R,YR,Yは彩度8以下 その他の色相は彩度6以下	

■ 元茨木川緑地景観形成地区の配慮事項

【誘導方針】風格のある自然の緑の存在感を妨げないような落ち着いた色彩や意匠とする。

- 元茨木川緑地の豊かな緑に調和し、緑との繋がりや一体感を感じさせる沿道広告物景観となるようにしましょう。

① 緑に調和した色彩にする

- 自然の緑を阻害しないように、色彩にアースカラー(大地のような褐色や、空・海の青色、草木の緑色など、自然が持つ色合い)や樹皮に近い色を使用しましょう。



アースカラーを用い、自然の緑と調和している事例(〇〇市)

② 樹木の高さを超えないようにする

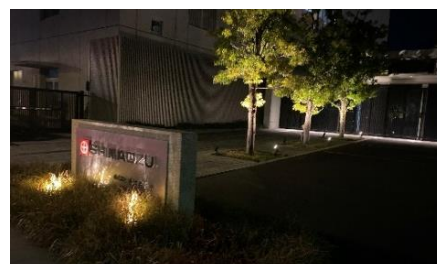
- 自然の緑の存在感を妨げることがないように、屋外広告物の規模は小さくし、樹木の高さを超えないようにしましょう。



樹木の高さを超えないように設置した事例(〇〇市)

③ 温かみのある夜間照明にする

- 照明を用いる場合は、自然の緑の景観を阻害することのないように必要最小限とし、温かみのある照明にしましょう。



温かみのある照明を使用し、自然の緑と調和している事例(〇〇市)

3) 彩都景観形成地区

大阪モノレール彩都西駅周辺とあさぎ大通り・やまがき大通り、ライフサイエンスパークで構成され、住宅地や研究開発施設等が一体となり、周辺の自然環境と調和した、美しく個性的なまちなみを形成しています。また、歩道と沿道の宅地が一体となった「庭園街路景観」が形成されています



■ 彩都景観形成地区の重点規制基準(第1～3種区域の許可基準に上乘せ)

第1～3種区域の許可基準	+	景観形成地区の重点規制基準		
		屋上広告物	表示面積	1面あたり30㎡以下
		壁面広告物	表示面積	1面あたり30㎡以下

■ 彩都景観形成地区の配慮事項

【誘導方針】沿道から見た山並みやまちなみへの眺めに配慮します。

○ 周辺の自然景観やまちなみに調和した良質な意匠となるようにしましょう。

① 沿道のまちなみを損なわない規模・配置にする

- 彩都の個性的な沿道のまちなみを損なうことがないように、規模を小さくしましょう。



規模を小さくして沿道のまちなみと調和している事例(〇〇市)

② 高層部に掲出しない

- 沿道から背景に山並みが見える場所では、建物の高層部への掲出は避けましょう。

③ 自然景観と住宅景観に調和した色彩にする

- 自然景観と住宅景観が同時に背景となる場所が多いため、それらの両方に調和するように、色彩には低彩度のものを使用しましょう。



低彩度の色彩を用い、自然景観と住宅景観に調和している事例(〇〇市)

4) 歴史的景観形成地区

勝尾寺川の南側に位置する宿川原地内で、旧街道としての趣があり、落ち着いた佇まいのまちなみが残されており、「歴史的景観」が形成されています。



■ 歴史的景観形成地区の重点規制基準(第1種区域の許可基準に上乘せ)

第1種区域の 許可基準	+	景観形成地区の重点規制基準		
		屋上広告物	表示面積	1面あたり30㎡以下
		壁面広告物	表示面積	1面あたり30㎡以下
		共通	色彩	広告物板面の地色の色彩は、 全ての色相で彩度6以下

■ 歴史的景観形成地区の配慮事項

【誘導方針】落ち着いた色彩を基調とし、歴史的資源の景観を妨げない最小限の表示とする。

- 歴史的なまちなみや落ち着いた佇まいを損なわないようにしましょう。

① 歴史的なまちなみに調和させる

- 歴史的なまちなみを損なわないように素材には、木材や石材などの自然素材を使用し、落ち着いた色彩を基調とするなど、意匠を工夫しましょう。



自然素材を使用し、まちなみに調和している事例(伊丹市)

② 屋上広告物は掲出しない

- 屋上広告物は掲出せず、規模の小さな壁面広告物で代替し、また、低い位置に掲出しましょう。

③ 照明を使用しない

- 夜間の落ち着いた佇まいを損なわないように、照明は使用しないようにしましょう。



規模の小さな壁面広告物でまちなみに調和している事例(京都市)

5) 沿道景観形成地区

都市計画道路道祖本摂津北線及び同茨木箕面丘陵線、同茨木駅千里丘丘陵線で構成され、本市のシンボルロードとして、街路樹が植栽され、沿道の建物とともに美しい景観が創出されています。



沿道景観形成地区の重点規制基準(第1～3種区域の許可基準に上乗せ)

第1～3種区域の許可基準	+	景観形成地区の重点規制基準		
		屋上広告物	表示面積	1面あたり30㎡以下
		壁面広告物	表示面積	1面あたり30㎡以下

沿道景観形成地区の配慮事項

【誘導方針】シンボルロードとしてふさわしい秩序ある沿道空間を創出します。

- シンボルロードとしてふさわしい景観となるように、沿道の街路樹に調和させる。

① 街路樹に調和した規模・配置・色彩とする

- 街路樹が連続する、うるおいのある沿道景観を妨げることがないように、街路樹の高さより低い位置に配置し、色彩にはアースカラー(大地のような褐色や、空・海の青色、草木の緑色など、自然が持つ色合い)を使用しましょう。



アースカラーを用い、街路樹に調和している事例(〇〇市)

② 通りの見通しを妨げない

- 沿線の屋外広告物は、見通しの景観を妨げず、周囲に圧迫感を与えないように道路の幅員や街路樹の高さに応じて大きさや高さを整えましょう。

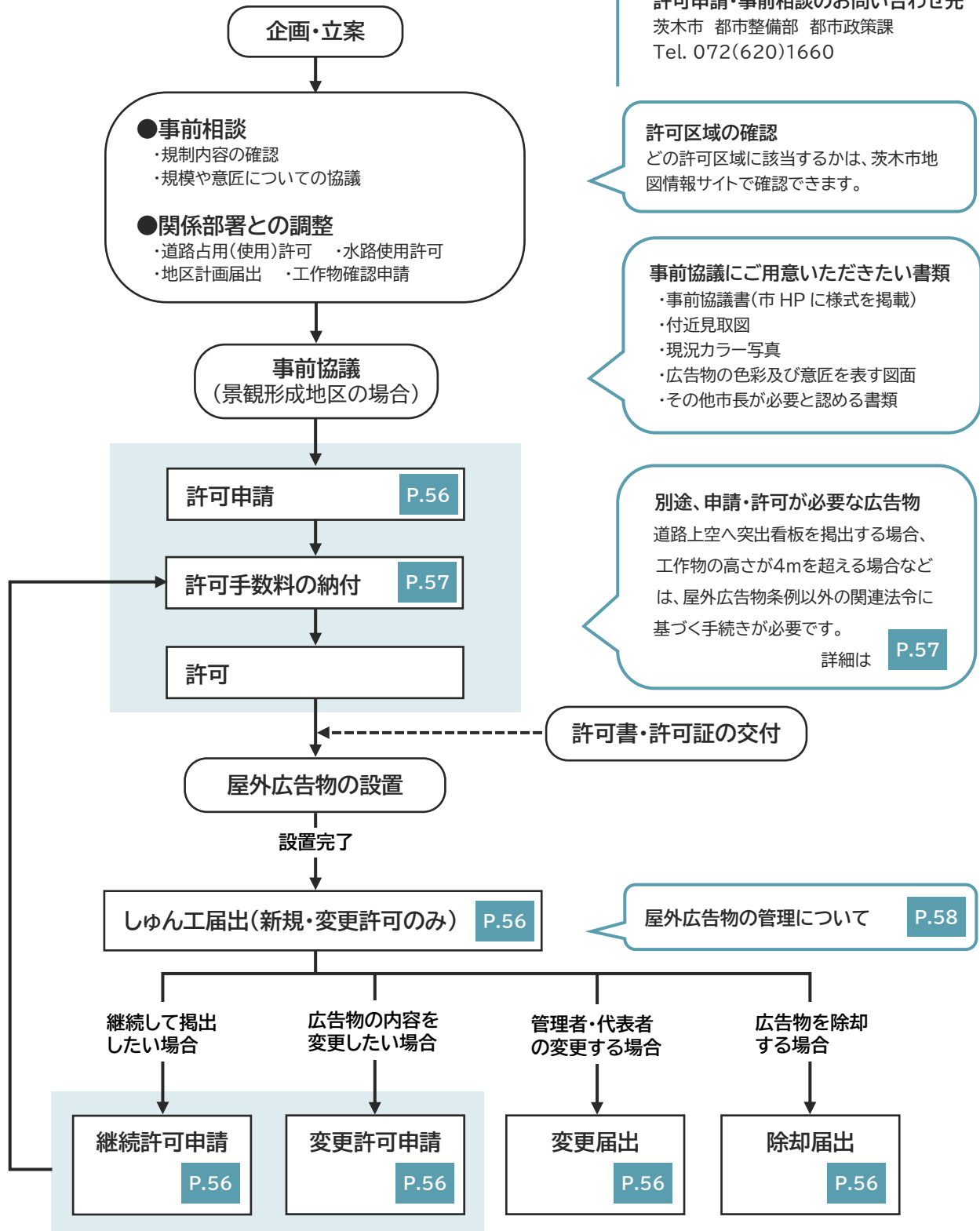


規模を小さくして、見通し景観が維持されている事例(〇〇市)

6. 許可申請手続き

許可申請手続きのフロー

屋外広告物の許可申請手続きは、次のとおりです。



(1) 必要書類

許可申請、届出の様式は、市 HP に掲載しています。

茨木市 屋外広告物

検索

	事前協議	新規許可	変更許可	継続許可	しゅん工届出	変更届出	除却届出	摘要	
様式	事前協議書	第1号 屋外広告物 許可申請書 (新規)	第2号 屋外広告物 変更許可 申請書	第1号 屋外広告物 許可申請書 (継続)	第9号 屋外広告物 しゅん工 届出書	第10号 屋外広告物 変更届出書	屋外広告物 除却届出書		
添付書類	現況カラー写真	○ 掲出場所が 全てわかるもの	○ 掲出場所が 全てわかるもの	○ 変更となる 広告表示面が 全てわかるもの	○ 広告表示面が 全てわかるもの	○ しゅん工後の 広告表示面が 全てわかるもの	○ 除却前、除却後 の状況が わかるもの		
	付近見取図	○	○	—	○	—	—	主要道路等を明示した もの	
	配置図	○	○	—	—	—	—		
	図面関係	平面図	○	○	—	—	—	—	建築物・広告物の両方 を含んでいるもので、 それぞれの位置関係が わかるもの
		立面図	○	○	—	—	—	—	建築物・広告物の両方 を含んでいるもの
		意匠図	○	○	—	—	—	—	着色したもの
		構造図	○	○	—	—	—	—	建築物・広告物の両方 を含んでいるもの
		配線図	○	○	—	—	—	—	広告物自体に電気設備 を使用する場合
	その他の図面	○	○	—	—	—	—	必要に応じ市長が必要 と認める図面	
	委任状	—	○	○	○	○	○	○	申請者が当該許可・届 出手続きを代理人に 委任する場合
	道路占用許可書 (写)	—	○	—	○	—	—	—	突出広告等で、道路上 の上空を占用する場合
	承諾書	—	○	—	○	—	—	—	広告物の掲出場所が 申請者以外の所有また は管理に属する場合。 ただし、申請書の承諾 欄に記入、押印のある 場合は不要
安全点検結果 報告書	—	—	—	○	—	—	—	高さが4mを超える広 告塔または広告板の場 合必要	

※申請書・届出書・添付書類は各2部(正・副)提出してください。

(2) 許可手数料と許可期間

屋外広告物の許可を受けるには、種類や面積に応じた許可手数料が必要です。

区分		単位	手数料の額	許可期間
アドバルーン		1個	650円	30日以内
広告幕・広告旗		1枚	350円	
立看板		1枚	200円	
はり紙 または はり札		100枚	250円	
広告塔 または 広告板 (広告塔、広告板、建築その他の 工作物等に掲出され、または掲 出された広告物を含む。)	2㎡未満のもの	1枚	450円	2年以内
	2㎡を超え 5㎡以下のもの		1,000円	
	5㎡を超えるもの		1,000円に、5㎡を超える面積が5㎡ までごとに、1,000円を加算した額	

※ はり紙 または はり札の枚数計算は、100枚に満たない端数も100枚とします。

※ 許可手数料は、書類審査後にお渡しする納付書により納めていただきます。

(3) 関連法令に係る手続き

屋外広告物を掲出するにあたっては、屋外広告物条例のほかに次のような関係法令の手続きが必要です。

事項	必要な許可等の種類	お問い合わせ先
道路上空へ突出看板を掲出する場合	道路占用許可 (道路法)	・国道事務所(主要国道) ・大阪府茨木土木事務所(府道、一部国道) ・茨木市建設管理課(市道)
突出看板等を道路上空へ掲出する場合 道路上で工事または作業する場合	道路使用許可 (道路交通法)	茨木警察署
工作物自体の高さが4mを超える物件を 設置する場合	工作物確認 (建築基準法)	・特定行政庁(茨木市審査指導課) ・指定確認検査機関
設置容量2キロボルトアンペア以上の ネオン管灯設備を設置する場合	ネオン管灯設備設置の 届出(消防法)	茨木市消防本部
アドバルーンを設置する場合	水素ガスを充てんする 気球の設置届(消防法)	茨木市消防本部
	許可または届出 (航空法)	大阪航空局(大阪空港事務所、八尾空港 事務所、関西空港事務所)
地区計画で広告物の規制がある場合	届出等	茨木市都市政策課
景観条例等で広告物の規制がある場合	届出等	茨木市都市政策課
生産緑地地区の規制がある場合	許可等(都市計画法・ 生産緑地法)	茨木市都市政策課

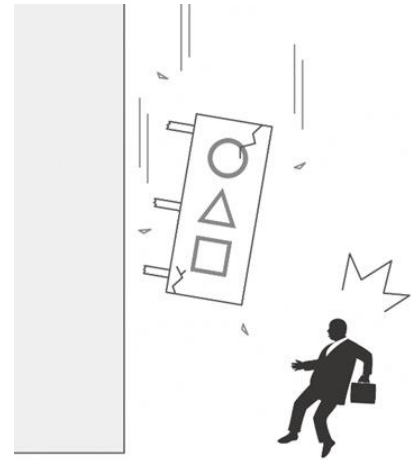
(4) 屋外広告物の管理

① 管理義務

屋外広告物の所有者、占有者、表示者、設置者及び管理者は、公衆に対する危害の発生防止のため、屋外広告物の補修その他の必要な管理を怠らないようにしなければなりません。

また、安全管理の観点から、茨木市屋外広告物条例により、高さが4mを超える屋外広告物の所有者または占有者に対し、屋外広告士などの有資格者による安全点検の実施が義務付けられています。

併せて高さが4mを超える屋外広告物の継続許可申請の際には、「屋外広告物安全点検結果報告書」の提出が必要です。



※ 高さが4mを超える屋外広告物のうち、新設時に建築基準法に定められている工作物確認を行っていないものについては、茨木市審査指導課に相談してください。

② 安全点検実施者の資格

茨木市屋外広告物条例等により、安全点検実施者の資格が次のように定められています。

- ・ 屋外広告士
- ・ 特種電気工事資格者のうちネオン工事に係る資格者
- ・ 屋外広告業の事業者団体が、内閣府の公益認定を受けて実施する広告物の点検に関する技能講習会の受講修了者

③ 除却義務

屋外広告物を掲出する必要がなくなったとき、許可期間が満了したとき、許可が取り消されたときは、5日以内にその屋外広告物を除却しなければなりません。

許可された屋外広告物及び掲出の届出をした屋外広告物を除却したときは、除却した旨を届け出なければなりません。

(5) 違反措置・罰則

① 違反広告物に対する措置

茨木市屋外広告物条例に違反した屋外広告物については、その表示者や設置者、管理者に改修、移転、除却等の措置を命じることがあります。

また、これに応じないときは、強制的に除却することがあります。

② 広告主の義務等

広告物の掲出を依頼した広告主にも、茨木市屋外広告物条例に違反した屋外広告物の掲出を防止する義務があります。

この義務に違反したときは、会社名等を公表することがあります。

③ 罰則

茨木市屋外広告物条例に違反した場合には、50万円以下の罰金などに処せられることがあります。

また、違反行為を行った行為者だけでなく、雇用主や屋外広告物の掲出を指示したものに対しても罰則の規定が適用されます。

(6) 窓口一覧

屋外広告物の許可申請受付は、下記で行っています。

許可申請書類の提出先	茨木市都市整備部 都市政策課	大阪府茨木市駅前三丁目8番13号 茨木市役所南館 5 階 Tel. 072-620-1660 Mail. toshi@city.ibaraki.lg.jp
------------	-------------------	--

【屋外広告物に関する茨木市公式ホームページ】

URL <https://www.city.ibaraki.osaka.jp/kikou/toshiseibi/toshiseisaku/menu/okugaikoukoku.html>